
「大学生アルバイト調査(2025 年実施)」報告書

UAゼンセン 政策サポートセンター

2026年7月

U A ゼンセン 政策サポートセンター

まえがき

U Aゼンセン政策サポートセンターでは、大学生アルバイトの実態を明らかにすることを目的として、「大学生アルバイト調査」を実施しました。

本調査は、大学生がどのような理由でアルバイトをしているのか、また、どのような働き方や悩みを抱えているのかなどを把握し、今後の労働環境の改善や必要な支援のあり方を検討するための基礎資料とすることを目的としています。

調査の実施にあたっては、対象となる大学の授業日程等を考慮し、2025 年 7 月（以下「7 月調査」）および 2025 年 10 月から 2026 年 1 月（以下「10 月調査」）の 2 回に分けて実施しました。

調査対象は、金井教授およびU Aゼンセン等との連携のもと、協力大学の教員を通じて授業等で配布し、同意した学生から回答を得る方法により実施しました。参加大学は 28 大学であり、2 回の調査を通じた延べ参加大学数は 30 大学（重複を含む）で、有効回答数は 2,285 件です。また、本調査の結果については、埼玉大学の金井教授に分析・評価を依頼し、専門的観点からの検討を加えていただきました。

本調査の実施にあたり、ご協力いただいた皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、調査を快く引き受けていただいた各大学の先生方、分析・評価にご尽力いただいた金井教授にも、心より感謝申し上げます。

2026 年 7 月

U Aゼンセン政策サポートセンター
センター長 松井 健

調査実施にあたって

この報告書は、2025 年 7 月から 2026 年 1 月の間に実施した「大学生アルバイト実態調査」の回答を集計し、調査結果としてまとめたものである。

埼玉大学金井ゼミでは、労働問題や労働組合について調査研究を進めてきた。その中で、大学生アルバイトにとって労働組合とはどういう役割や機能を持つものなのか、という「素朴な」疑問が学生から上がった。学生アルバイトを雇用している会社では、学生アルバイトに多くの労働力を依存していることが多い。一方で、多くの学生アルバイトは、企業や労働組合にとっては長くても学生時代の 4 年間だけの在職となることが予想されること、学生にとっても一時的な所得を得る手段、社会経験を積む手段としてアルバイトを認識するなど、企業・労働組合・学生アルバイトともに「労働者」としての位置づけがあいまいであることが話し合われた。こうした労働者としての曖昧な位置づけによって、ほかの非正規労働者と比べると学生アルバイトの実態調査そのものが少ない原因であることも考えられた。そこで、問題意識を共有する U A ゼンセン政策サポートセンターとともに、学生アルバイトの就労実態や意識、ならびに労働組合との関わりについて明らかにすることを目的に WEB 調査を実施することとなった。

具体的な質問項目は大きく 6 の分野から構成され、①奨学金の有無や居住状況などを含めた回答者の属性、②現在行っているアルバイトの実態（労働時間、賃金、困ったことや不満の有無など）、③アルバイト先でのハラスメント経験、④アルバイトを辞めた経験、⑤スポットバイトの経験、⑥政策に対する意識・労働者の権利に関する認知である。調査配布の方法は、我々のつながりのなかから調査にご協力いただける大学・教員に依頼し、授業等で配布してもらい、承諾した学生に回答してもらうという方法をとった。そのため、労働に関する授業での配布が多くなったことが一つの特徴である。また、授業期間中に配布するため、「第 1 回（2025 年 7 月）」と「第 2 回（2025 年 10 月～2026 年 1 月）」に、教員のタイミング・やり方で配布してもらった。学生アルバイトの賃金に最も影響を与えると考えられる最低賃金のグループ間がまたがるよう地域にも配慮した。28 大学の学生から有効回答数 2,285 件の調査協力を得られ、また男女比率もほぼ半数を占めるものとなった。また、アルバイトをしている層（1,896 件）について、アルバイト先の都道府県（ランク）は A ランク：1,019 件、B ランク：511 件、C ランク：349 件、NA：17 件と、地域的にも広がりを持った調査を行うことができた。

各質問項目に関する集計結果は報告書をご一読いただきたいが、学生アルバイトの実態から浮かび上がる論点を 4 つ挙げたい。

- ① 学生がアルバイトをする理由は、第 1 位「趣味や交際費のため」（57.1%）が 6 割近くを占めるが「生活費」（22.6%）も 2 割強いる。「趣味や交際費のため」といっても、サークル活

動やゼミ活動を行う費用も含まれると考えられ、大学生が学生生活を送る上で欠くことのできない費用を学生がアルバイトをして賄っているといえ、学生に対する公的な経済支援が薄い日本の現状が浮かび上がる。本調査では、[A：学費や生活費に対する給付型奨学金や公的支援を充実させて、親に頼らず、かつ、学生が働かなくても大学生活を送れるように環境を整えるべきである]と[B：扶養の上限を見直し、希望する学生がより多くの時間働けるようにして、学費や生活費を自力で賄えるようにするべきである]の2つの考え方を示して、どちらの考えに近い回答してもらった。その結果をみると、＜Aに近い＞（「Aに近い」＋「どちらかといえばA」）が58.9%と6割近くを占め、＜Bに近い＞（「Bに近い」＋「どちらかといえばB」：38.7%）を大きく上回っている。若者の多くが「年収の壁」の緩和ではなく、社会政策として若者への経済的支援（給付型奨学金など）を充実させることを望んでいることが明らかとなった。

- ② 学生アルバイトは「労働者」であるため、他の雇用形態と同様、処遇改善等を検討する対象である。しかし、学生アルバイトの1週当たりの労働時間は「10-19時間」が55%と過半を占め、平均労働時間は14.3時間である。1年以上働く者は5割以上おり、学生アルバイトとしては定着がみられるが勤続年数は1.3年と短い。これらの特徴を前提にすると、他の労働者の処遇改善のロジックとは異なるものが必要となる。パートタイム労働者等ほかの非正規労働の処遇改善は、質的に基幹化することに対応して、処遇の改善を行うことが目指されてきた。しかし、学生アルバイトを基幹化する方向で処遇改善を考えることは、学業を主とする学生アルバイトとはなじまない。どのような論理で処遇改善できるのかを労使ともに考える必要がある。
- ③ その際に重要な視点は、学生アルバイトの処遇を検討することは正社員の処遇を考えるということである。現在の日本企業の雇用ポートフォリオのあり方は、責任主体としての正社員と、「責任」を免れる「非正社員」という区分がなされ、処遇格差を説明する要素としても使われてきた。特に学生アルバイトとパートのなかでも、この「責任」の程度にグラデーションが慣行的に作られることが多い（学生アルバイト＜パート）。この「責任」には、正社員は誰かの遅刻・欠勤の穴埋めをすることなどが求められ、正社員が休憩・休息がとれず長時間働くことが促されている。一方で、一部の職場では仕事が円滑に運営されることを目的に、学生アルバイトを休ませない、もしくは代替要員を自分で見つけるまで休ませない、といったことも散見される。処遇改善といった時に、学生アルバイトだけが、自由に休憩・休暇を取れることを求めることではない。正社員や他の非正規労働者も含めて、ディーセントな働き方をするには何が必要なのかを学生アルバイトのあり方を含めて考えることが労働組合には求められる。

- ④ 若者（学生）にとって、最初に労働組合と出会う場が、学生アルバイトの職場である可能性が高い。労働組合の役割や機能を学生アルバイトが理解することが、その後の（別の会社で働くことになった場合でも）労働組合への認知、活動に影響を与えられと考えられる。本調査からは、アルバイト先の労働組合の有無については、「労働組合があるかどうか分からない」が78.5%と8割近くに及んでいる。さらに、現在、労働組合の組合員ではない学生を対象に、アルバイト先に労働組合があった場合の加入希望をみると、「よく分からない」が54.2%と過半数を占める。学生アルバイトを組織化していなくとも、学生アルバイトは正社員の働き方、労働組合の活動をみている。労働組合は、労働組合の役割や機能、ひいては意義について、学生アルバイトの認知を職場で高めていく必要がある。

本報告書が、学生アルバイトの実態を明らかにして、労働組合として学生アルバイトにどのように向き合っていくのかを検討する端緒となれば幸いである。

埼玉大学 経済学部
教授 金井 郁

目 次

調査実施の概要	1
第1章 回答者のプロフィール.....	2
1. 回答者の属性.....	2
2. 奨学金について.....	3
3. アルバイトの経験.....	4
第2章 現在のアルバイト.....	5
1. アルバイトの数.....	5
2. 働いている時間と働きたい時間.....	6
3. 1ヵ月のアルバイト賃金と就業調整.....	7
4. アルバイトをする理由.....	9
5. 現在のアルバイト先について.....	11
6. 現在のアルバイト先での勤務期間.....	14
7. アルバイト先の探し方.....	15
8. 雇用契約書と給与明細の受け取り.....	18
9. アルバイトの賃金.....	20
10. 困ったことや不満に感じたこと.....	24
11. アルバイト先の労働組合について.....	27
12. アルバイト先の企業への就職希望.....	29
第3章 アルバイト先でのハラスメントの経験.....	30
1. ハラスメントを受けたこと、見聞きしたことの有無.....	30
2. ハラスメントの経験による影響.....	33
3. ハラスメントを受けたあとの行動.....	34
4. カスハラについての学習や情報の入手.....	35
第4章 アルバイトを辞めた経験.....	36
1. アルバイトを辞めたことの有無.....	36
2. アルバイトを辞めた理由.....	37
第5章 スポットバイトの経験.....	39
1. スポットバイトの経験.....	39
2. スポットバイトの種類.....	40
第6章 政策に対する意識・労働者の権利に関する認知.....	42
1. 大学生活における学生への経済的負担軽減策について.....	42
2. 労働者の権利についての理解.....	43
3. 労働組合についての学習や情報入手.....	45
4. アルバイト先に労働組合があった場合の加入希望.....	46

調査実施の概要

1. 調査の目的

本調査は、大学生がどのような理由でアルバイトをしているのか、どのような働き方や悩みを抱えているのかなどを明らかにし、今後の労働環境の改善や、必要な支援のあり方を考えるための基礎資料とすることを目的として実施した。

2. 調査の実施時期

調査対象の大学の授業等のタイミングを考慮し、2025 年 7 月（以下、「7 月調査」）と 10 月～2026 年 1 月（以下、「10 月調査」）に分けて実施した。

3. 調査対象

参加対象大学は以下の通りである。

7 月調査（7 大学）

- | | | |
|---------|----------|---------|
| ・ 埼玉大学 | ・ 同志社大学 | ・ 立命館大学 |
| ・ 学習院大学 | ・ 立教大学 | |
| ・ 大分大学 | ・ 小樽商科大学 | |

10 月調査（23 大学）

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| ・ 埼玉大学 | ・ 高知大学 | ・ 明治大学 |
| ・ 平成国際大学 | ・ 高知県立大学 | ・ 北海道大学 |
| ・ 島根県立大学 | ・ 大阪経済大学 | ・ 北海学園大学 |
| ・ 同志社大学 | ・ 神奈川大学 | ・ 武庫川女子大学 |
| ・ 広島大学 | ・ 実践女子大学 | ・ 山口大学 |
| ・ 福島大学 | ・ 中央大学 | ・ 鹿児島大学 |
| ・ 岩手大学 | ・ 東洋大学 | ・ 愛知大学 |
| ・ 岩手県立大学 | ・ 法政大学 | |

4. 調査方法

Web 調査で実施した。なお、大学ごとに URL および QR コードを作成し、授業等で担当教員からの配布を依頼した。

5. 回答状況

有効回答数は 2,285 件である。

第1章 回答者のプロフィール

1. 回答者の属性

(1) 学年

回答した大学生の学年は、「1年生」(35.1%)と「2年生」(32.3%)が中心で7割近くが2年生以下である。「3年生」は24.6%を占めるが、「4年生」は6.9%と1割に満たない(第1-1表)。

(2) 年齢

年齢は「20歳」(33.2%)が最も多く、「21歳」(30.4%)も3割を占める。

(3) 性別

「男性」が48.7%、「女性」が49.8%と半数ずつを占める。学年別にみると、4年生のみ「男性」の割合が多い。

(4) 留学生

「留学生」は1.5%とごくわずかにとどまり、「留学生ではない」(97.9%)が大半である。

第1-1表 回答者のプロフィール(学年、年齢、性別、留学生)

		学年								年齢						性別				留学生			件数
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生以上	大学院生	その他	無回答	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳以上	無回答	男性	女性	どちらか答えたくない	無回答	留学生	留学生ではない	無回答	
総計		35.1	32.3	24.6	6.9	0.2	0.6	0.1	0.2	11.9	33.2	30.4	17.1	6.7	0.6	48.7	49.8	1.1	0.5	1.5	97.9	0.7	2285
学年別	1年生	100.0	...	...	...	...	...	...	...	33.7	60.2	4.7	0.1	0.6	0.6	49.2	49.3	1.1	0.4	1.2	98.5	0.2	801
	2年生	...	100.0	...	...	...	...	...	...	0.3	37.3	57.0	4.1	0.9	0.4	44.9	53.9	0.9	0.3	1.1	98.2	0.7	738
	3年生	...	...	100.0	...	...	...	...	...	...	...	42.1	51.9	5.7	0.4	49.2	49.7	0.7	0.4	1.1	98.6	0.4	561
	4年生	...	...	...	100.0	...	...	...	...	...	...	...	43.0	57.0	...	63.9	34.2	1.9	...	3.2	95.6	1.3	158
	5年生・院生・その他	...	...	...	...	22.7	63.6	13.6	...	...	4.5	...	4.5	90.9	...	40.9	54.5	4.5	...	22.7	77.3	...	22
性別	男性	35.4	29.8	24.8	9.1	0.4	0.3	0.2	0.1	11.3	31.9	28.7	18.0	9.3	0.8	100.0	...	...	...	2.2	97.0	0.8	1112
	女性	34.7	35.0	24.5	4.7	0.1	0.9	0.1	...	12.6	34.7	32.0	16.4	4.2	0.1	...	100.0	...	...	0.8	99.0	0.2	1138

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す

※濃い網かけ数字は「総計」より15ポイント以上多いことを示す

※件数30以下なら網掛等非表示

（５）現在の住居

現在の住居は「自宅」が54.8%と過半数を占め、「下宿・アパート・その他」が37.7%、「学生寮（寄宿舍）」が7.0%である。1、2年生では「下宿・アパート・その他」、3、4年生では、「自宅」がやや多い。性別では、男性に比べて女性で「自宅」がやや多く、6割近くを占める（第1－2表）。

第1－2表 現在の住居

	自宅	学生寮 （寄宿舍）	の下宿・ アパート・ その他	無回答	件数
総計	54.8	7.0	37.7	0.4	2285
学年別					
1年生	47.9	9.9	41.9	0.2	801
2年生	57.2	5.4	37.1	0.3	738
3年生	59.9	5.5	34.2	0.4	561
4年生	62.7	6.3	31.0	...	158
5年生・院生・その他	50.0	4.5	45.5	...	22
性別					
男性	52.2	9.1	38.4	0.3	1112
女性	57.8	4.8	37.1	0.3	1138

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す
※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す
※件数30以下なら網掛等非表示

2. 奨学金について

奨学金について（複数選択）は、「奨学金は申請していない」が51.2%と半数を占める。それ以外では、「奨学金・給付（返済不要）」が20.3%、「奨学金・貸与（無利子）」が18.5%、「奨学金・貸与（有利子）」が17.3%とそれぞれ2割前後を占める。なお、「申請したが受けられなかった」が3.1%を占め、給付または貸与をく受けている>割合は45.5%である（第1－3表）。

<受けている>割合は、1年生では5割を占めるが、学年が上がるにつれて減少し、4年生では4割弱となっている。

第1－3表 奨学金について（複数選択）

	不要奨学金・給付（返済）	子奨学金・貸与（無利）	子奨学金・貸与（有利）	な申請したが受けられ	ない奨学金は申請してい	無回答	件数	受けている計
総計	20.3	18.5	17.3	3.1	51.2	0.2	2285	45.5
学年別								
1年生	24.8	20.5	18.1	4.9	45.1	...	801	50.1
2年生	20.1	18.7	18.3	2.3	51.6	0.1	738	45.9
3年生	16.6	17.6	15.9	2.1	55.8	...	561	42.1
4年生	13.3	12.7	16.5	1.3	60.8	...	158	38.0
5年生・院生・その他	4.5	4.5	...	4.5	86.4	...	22	9.1
性別								
男性	19.5	18.5	19.8	2.7	49.6	...	1112	47.7
女性	21.1	18.3	14.9	3.5	52.9	0.1	1138	43.5

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す
※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す
※濃い網かけ数字は「総計」より15ポイント以上多いことを示す
※件数30以下なら網掛等非表示

3. アルバイトの経験

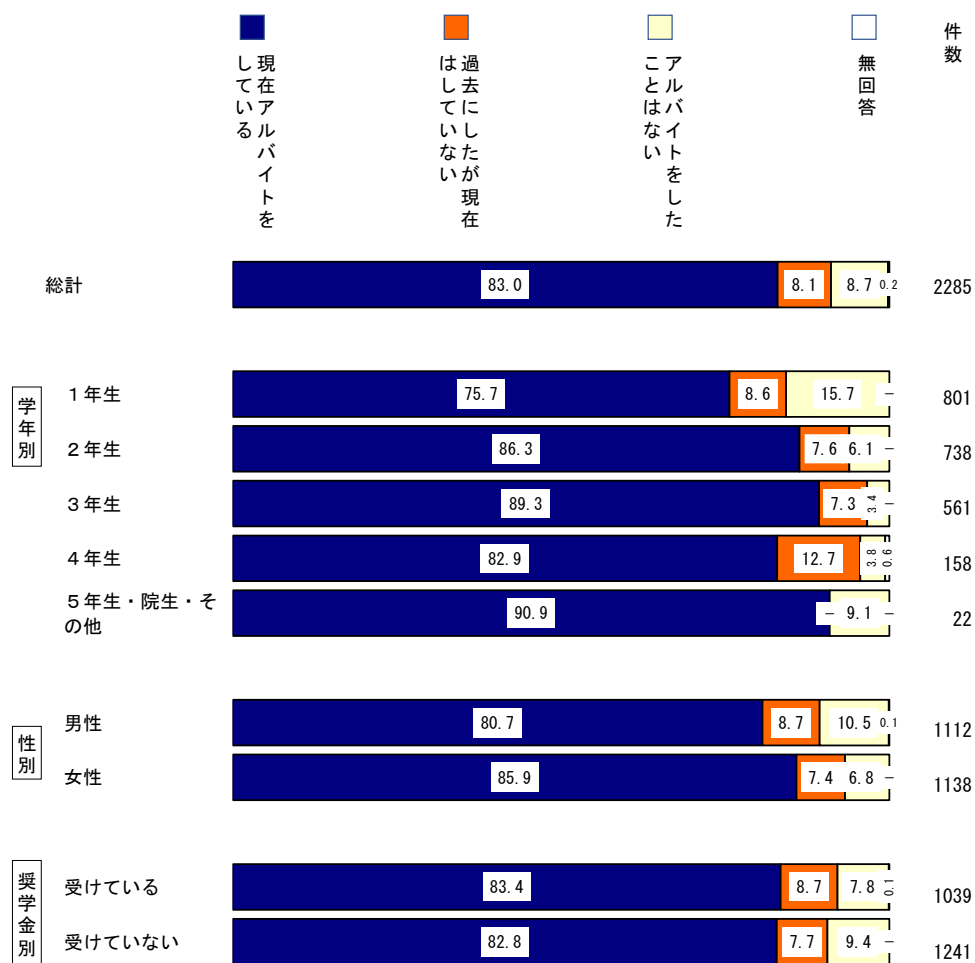
アルバイトの経験については、「現在アルバイトをしている」が 83.0%と多数に及んでいる。そのほか、「過去にしたが現在はしていない」が 8.1%、「アルバイトをしたことはない」が 8.7%とそれぞれ 1 割弱ずつを占める（第 1-1 図）。

1 年生で「アルバイトをしたことはない」、4 年生で「過去にしたが現在はしていない」がやや多いが、いずれの学年も「現在アルバイトをしている」が多数である。

性別でみると、「現在アルバイトをしている」は女性でやや多い。

奨学金を受けているかどうかでは、アルバイト経験に違いはない。

第 1-1 図 アルバイト経験の有無



第2章 現在のアルバイト

以下では、「現在アルバイトをしている」と回答した大学生（1,896名）を対象に、現在のアルバイトの状況についてみていくことにする。

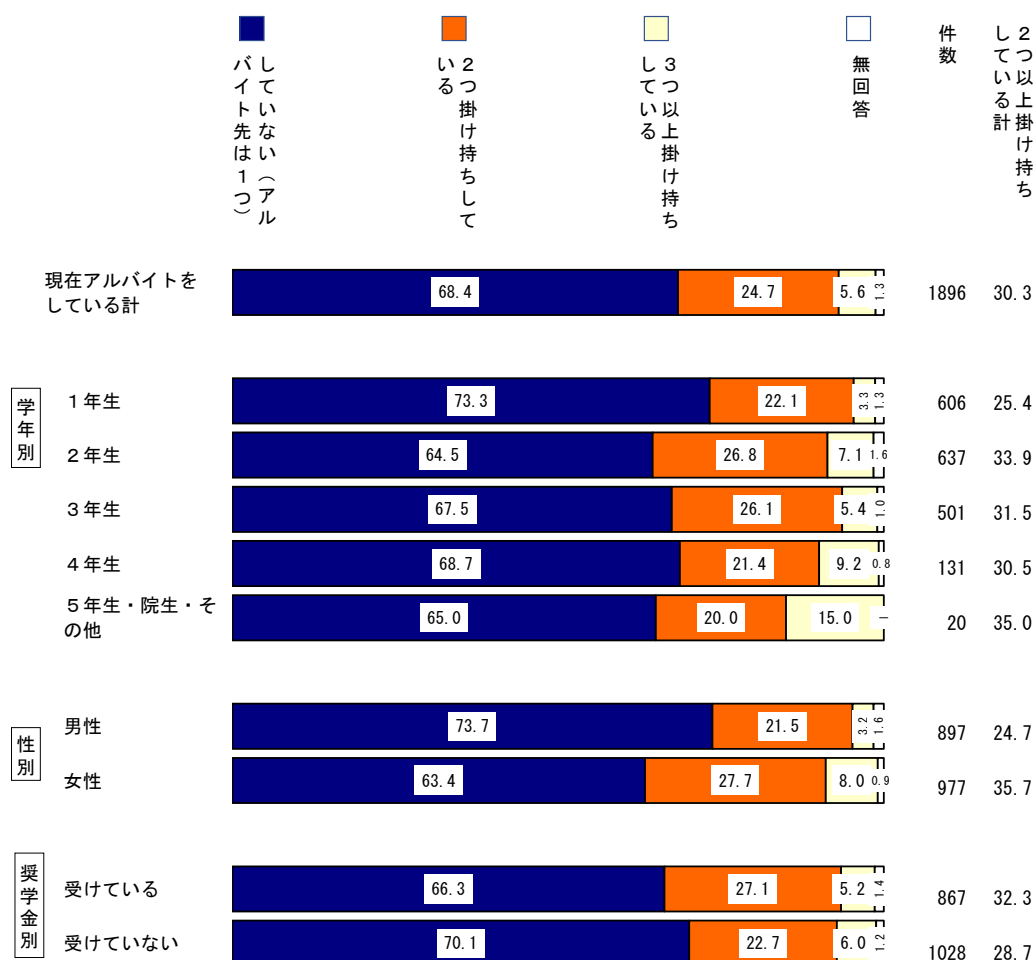
1. アルバイトの数

アルバイトの掛け持ちをしているかをみると、掛け持ちを「していない（アルバイト先は1つ）」が68.4%と7割近くを占める。それ以外では、「2つ掛け持ちをしている」が24.7%と全体の4分の1程度を占め、これに「3つ以上掛け持ちしている」（5.6%）を合わせた＜2つ以上掛け持ちしている＞割合は3割を占める（第2-1図）。

学年別にみると、＜2つ以上掛け持ちしている＞は1年生でやや少ない。性別では、女性で＜2つ以上掛け持ちしている＞が35.7%を占め、男性（24.7%）を11ポイント上回る。

奨学金を受けている学生で＜2つ以上掛け持ちしている＞が3割強とやや多いが、奨学金を受けていない学生と大差はない。

第2-1図 アルバイトの掛け持ちの有無



2. 働いている時間と働きたい時間

1週間あたりのアルバイト時間は「10～19時間」が55.0%と過半数を占め、「20～29時間」(19.3%)と「5時間未満」と「5～9時間」を合わせた<10時間未満>(21.5%)がそれぞれ2割前後を占め、30時間以上は少ない。平均のアルバイト時間は14.3時間である。学年別にみると、4年生では、20時間以上アルバイトをしている割合が相対的に多く、平均アルバイト時間も16.6時間と総計を2時間程度上回る(第2-1表)。

1週間に働きたい時間については、平均15.6時間と実際に働いている時間に比べて1時間程度長い。5年生以上・院生・その他を除きいずれの層も働いている時間よりも働きたい時間が上回るが、1年生ではその差が2時間程度とやや大きい。

第2-1表 1週間当たりのアルバイト時間と働きたい時間

		働いている時間								働きたい時間								件数		
		5時間未満	5～9時間	10～19時間	20～29時間	30～39時間	40時間以上	無回答	中央値・時間	平均値・時間	5時間未満	5～9時間	10～19時間	20～29時間	30～39時間	40時間以上	無回答		中央値・時間	平均値・時間
現在アルバイトをしている計		5.5	16.0	55.0	19.3	2.9	0.4	0.9	15.0	14.3	3.9	10.8	49.1	27.5	3.9	1.1	3.9	15.0	15.6	1896
学年別	1年生	7.9	17.8	54.6	15.8	2.3	0.2	1.3	12.2	13.4	4.0	10.6	51.8	25.9	3.1	0.7	4.0	15.0	15.3	606
	2年生	4.9	14.1	56.5	21.0	1.9	0.6	0.9	15.0	14.5	3.3	11.0	48.8	27.6	3.9	0.9	4.4	15.0	15.8	637
	3年生	3.8	17.0	55.7	19.2	3.6	0.2	0.6	15.0	14.4	4.6	10.2	49.7	27.1	4.6	1.0	2.8	15.0	15.4	501
	4年生	3.8	13.0	45.0	29.0	6.9	1.5	0.8	16.0	16.6	3.8	10.7	35.9	37.4	4.6	3.1	4.6	18.0	17.7	131
	5年生・院生・その他	10.0	15.0	60.0	5.0	10.0	...	...	15.0	14.4	...	30.0	45.0	10.0	5.0	5.0	5.0	10.0	13.8	20
性別	男性	5.0	16.1	52.5	21.2	3.7	0.6	1.0	15.0	14.7	3.8	10.5	45.9	29.4	4.6	1.4	4.3	15.0	16.1	897
	女性	5.8	15.9	57.3	17.6	2.3	0.3	0.8	14.0	13.9	3.9	10.8	52.1	25.8	3.4	0.7	3.3	15.0	15.3	977
金銭別	受けている	4.4	15.9	54.4	21.7	2.2	0.1	1.3	15.0	14.5	3.7	9.9	46.9	31.4	3.7	0.5	3.9	15.0	15.8	867
	受けていない	6.5	16.1	55.4	17.2	3.5	0.7	0.7	14.0	14.0	4.0	11.6	50.9	24.1	4.1	1.6	3.8	15.0	15.5	1028

※下線数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上多いことを示す
 ※濃い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より15ポイント以上多いことを示す
 ※件数30以下なら網掛等非表示

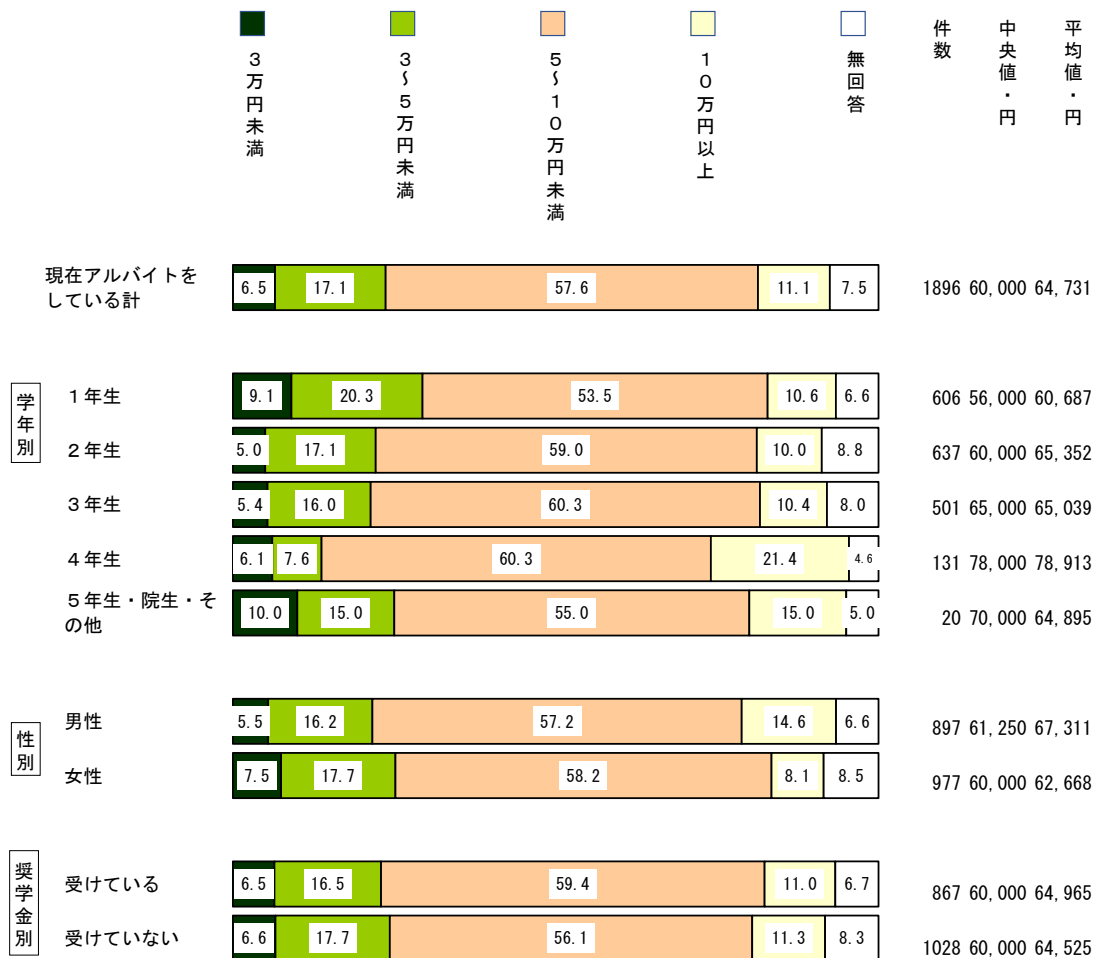
3. 1ヶ月のアルバイト賃金と就業調整

(1) 1ヶ月のアルバイト賃金

1ヶ月のアルバイト賃金は、「10万円以上」(11.1%)は1割程度で「5～10万円未満」が57.6%と6割近くを占める。平均のアルバイト賃金は64,731円(中央値:60,000円)である。平均額は1年生で60,687円とやや少なく、平均アルバイト時間が長かった4年生(78,913円)で高い。4年生については「10万円以上」が2割強を占め、3年生以下に比べて多くなっている(第2-2図)。

性別にみると、男性の方が「10万円以上」の割合がやや多く、平均額は男性(67,311円)が女性(62,668円)を5千円近く上回っている。

第2-2図 1ヶ月のアルバイト賃金

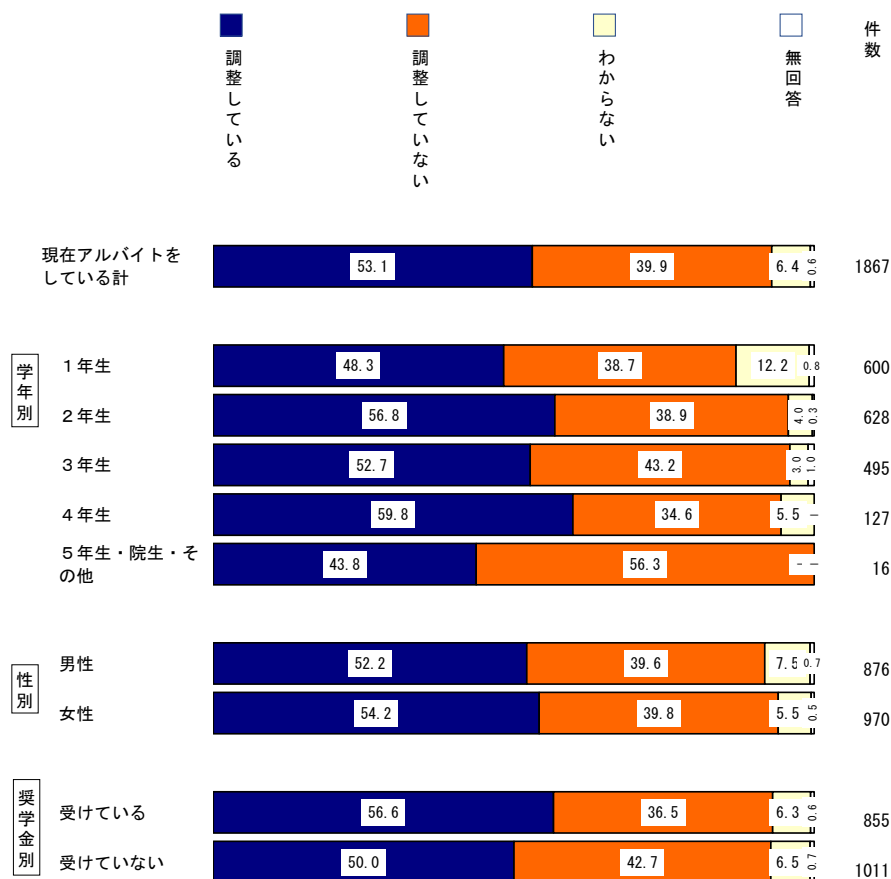


（２）就業調整

親等の扶養の範囲内で働くために労働時間を調整しているかどうかをみると、「調整している」が53.1%と過半数を占め、「調整していない」（39.9%）を上回る（第2-3図）。

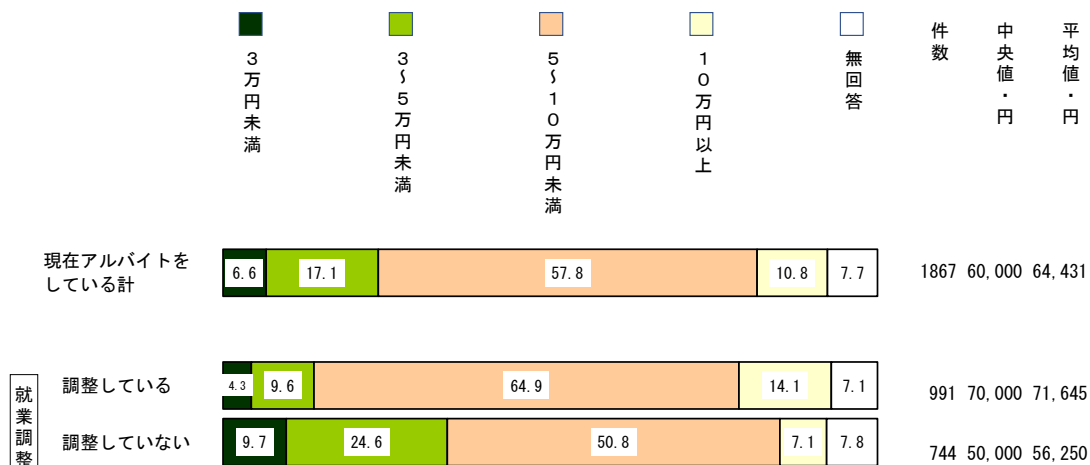
「調整している」は2年生と4年生で、やや多い。性別による目立った違いはないが、奨学金を受けていない層に比べて受けている層で「調整している」が7ポイント多くなっている。

第2-3図 親等の扶養範囲内で働くための労働時間調整の有無（留学生を除く）



第2-4図は、就業調整の有無別にみた1ヵ月のアルバイト賃金である。これをみると、就業調整をしている層では平均71,645円と就業調整をしていない層（56,250円）を約15,000円上回っている。

第2-4図 1ヵ月のアルバイトの賃金（留学生を除く）



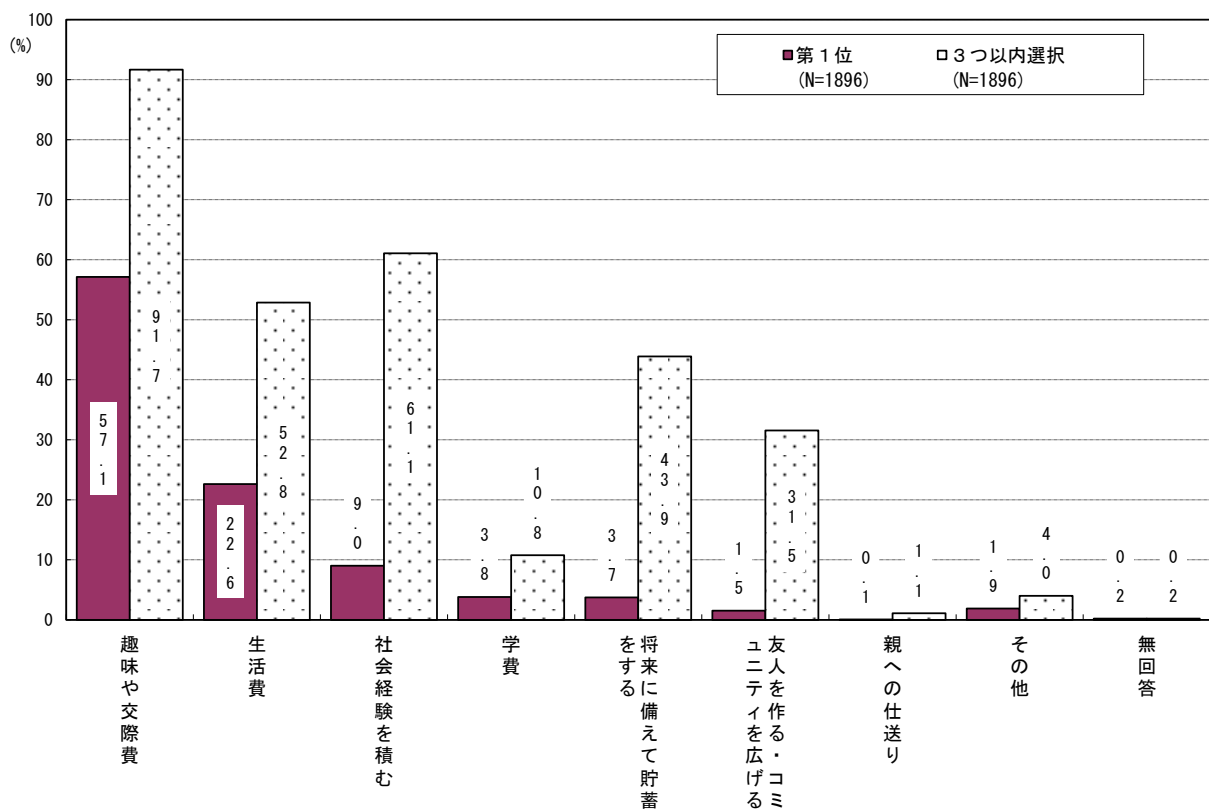
4. アルバイトをする理由

アルバイトをする理由については、順位をつけて3つ以内で回答してもらった。

第2-5図は、第1位と3つ以内選択の回答を示している。第1位の比率をみると、「趣味や交際費」(57.1%)が6割近くを占め、最も多い。以下、比率は大きく下がり、「生活費」(22.6%)が2割強、「社会経験を積む」(9.0%)が1割を占める。

次に3つ以内選択の結果をみると、「趣味や交際費」(91.7%)は9割超にのぼり、「社会経験を積む」(61.1%)が6割強、「生活費」(52.8%)も5割強を占める。以下、「将来に備えて貯蓄をする」(43.9%)が4割強、「友人を作る・コミュニティを広げる」(31.5%)が3割強で続いている。

第2-5図 アルバイトをする理由（3つ以内選択）



3つ以内選択の結果をみると、「趣味や交際費」が9割前後を占める点はいずれの層も共通している（第2-2表）。

学年別にみると、4年生で「友人を作る・コミュニティを広げる」が4割近くとやや多い。

性別では、男性で「生活費」が6割近くを占め、女性を11ポイント上回っている一方、女性は「将来に備えて貯蓄をする」が5割を占め、男性に比べて多くなっている。

また、奨学金を受けている層では、約3人に2人が「生活費」をあげているほか、「学費」も2割弱を占め、奨学金を受けていない層を上回る。一方、奨学金を受けていない層では、「社会経験を積む」がほぼ7割と多くなっている。

第2-2表 アルバイトをする理由（3つ以内選択）

	学 費	生 活 費	趣 味 や 交 際 費	友 人 を 作 る ・ コ ミ ュ ニ ティ を 広 げ る	社 会 経 験 を 積 む	親 へ の 仕 送 り	未 来 に 備 え て 貯 蓄 を す る	そ の 他	無 回 答	件 数
現在アルバイトをしている計	10.8	52.8 ③	91.7 ①	31.5	61.1 ②	1.1	43.9 ④	4.0	0.2	1896
学 年 別										
1年生	12.0	55.8 ③	89.3 ①	30.4	59.1 ②	1.7	43.7 ④	4.1	0.3	606
2年生	11.0	50.2 ③	93.1 ①	31.4	61.2 ②	0.6	45.4 ④	4.4	0.2	637
3年生	7.6	51.7 ③	92.6 ①	32.3	64.9 ②	1.2	42.9 ④	4.0	0.2	501
4年生	14.5	55.0 ③	92.4 ①	37.4	57.3 ②	0.8	38.9 ④	2.3	...	131
5年生・院生・その他	20.0	65.0	90.0	15.0	45.0	...	55.0	...	...	20
性 別										
男性	11.0	58.8 ②	90.3 ①	34.4	56.7 ③	1.7	38.0 ④	5.2	0.2	897
女性	10.5	47.4 ④	93.0 ①	29.2	64.8 ②	0.6	49.4 ③	2.9	0.1	977
奨 学 金 別										
受けている	18.1	64.4 ②	89.0 ①	25.6	51.7 ③	1.2	42.4 ④	4.5	0.2	867
受けていない	4.6	43.2 ④	93.9 ①	36.5	69.0 ②	1.1	45.1 ③	3.6	0.2	1028

※下線数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上多いことを示す

※丸数字は比率の順位（第4位まで表示）

※件数30以下なら網掛等非表示

就業調整の有無別にみると、就業調整をしていない層では、「社会経験を積む」が7割近くを占め、調整している層を10ポイント上回っている。一方、就業調整をしている層では、「将来に備えて貯蓄をする」や「生活費」、「学費」の割合がやや多い（第2-3表）。

第2-3表 アルバイトをする理由（3つ以内選択）（留学生を除く）

	学 費	生 活 費	趣 味 や 交 際 費	友 人 を 作 る ・ コ ミ ュ ニ ティ を 広 げ る	社 会 経 験 を 積 む	親 へ の 仕 送 り	未 来 に 備 え て 貯 蓄 を す る	そ の 他	無 回 答	件 数
現在アルバイトをしている計	10.6	52.4 ③	92.0 ①	31.6	61.1 ②	1.1	44.0 ④	4.1	0.2	1867
就 業 調 整										
調整している	11.7	54.7 ③	91.9 ①	31.3	57.3 ②	1.0	46.9 ④	3.2	...	991
調整していない	8.6	48.1 ③	93.5 ①	32.7	67.1 ②	0.7	42.1 ④	4.7	...	744

※下線数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上多いことを示す

※丸数字は比率の順位（第4位まで表示）

※件数30以下なら網掛等非表示

5. 現在のアルバイト先について

以下、アルバイトを複数掛け持ちしている場合は、最も働いている時間が長いアルバイトについて回答をしてもらった。

(1) 業種

現在のアルバイトの業種をみると、「居酒屋」や「カフェ」、「ファストフード」等＜外食＞が49.6%と5割を占める。そのほか、「スーパーマーケット」や「コンビニ」等＜小売＞が22.9%、「教育関連」が8.6%、「ホテル・結婚式場スタッフ」や「カラオケ・パチンコなど」等＜その他サービス＞が6.9%などとなっている（第2-4表）。

属性別にみると、1年生で＜外食＞の割合がやや多い程度で目立った違いはない。

第2-4表 現在のアルバイトの業種

							小 売 計						外 食 計					そ の 他 サ ー ビ ス 計	庭 教 師 等 （ 塾 講 師 、 家 庭 教 師 等 ）	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	件 数
		ス ー パ ー マ ー ケ ッ ト	コ ン ビ ニ	百 貨 店	ド ラ ッグ ス ト ア	そ の 他 小 売		ン 	フ ア ミ リ ー レ ス ト ラ	フ ア ス ト フ ード	カ フ エ	居 酒 屋		そ の 他 ・ 外 食	な ど	カ ラ オ ケ ・ パ チ ン コ	ク の ス タ ッフ						
現在アルバイトをしている計		6.1	4.2	1.2	2.5	9.0	22.9	6.4	7.2	7.3	10.9	17.8	49.6	1.9	0.6	2.8	1.5	6.9	8.6	9.3	0.6	2.1	1896
学 年 別	1年生	5.3	3.8	1.2	2.5	7.8	20.5	8.1	8.3	4.6	13.2	21.3	55.4	2.1	0.3	3.1	1.2	6.8	5.8	8.1	0.5	3.0	606
	2年生	7.2	3.8	1.3	2.5	8.6	23.4	5.7	6.0	7.7	11.1	19.0	49.5	1.7	0.2	3.3	2.2	7.4	8.9	8.5	0.5	1.9	637
	3年生	6.4	5.2	1.4	2.0	10.8	25.7	4.8	7.8	9.6	8.8	13.4	44.3	1.4	1.6	2.4	1.2	6.6	10.6	10.8	0.6	1.4	501
	4年生	3.8	3.8	...	2.3	10.7	20.6	7.6	6.1	9.2	9.2	16.0	48.1	3.8	0.8	1.5	0.8	6.9	9.2	13.0	1.5	0.8	131
	5年生・院生・その他	5.0	5.0	...	15.0	...	25.0	10.0	5.0	5.0	...	...	20.0	...	...	...	5.0	5.0	35.0	10.0	...	5.0	20
性 別	男性	7.8	5.6	0.7	2.2	5.5	21.7	7.6	7.9	4.0	11.9	17.7	49.2	2.5	0.4	2.2	2.0	7.1	8.6	10.5	0.7	2.2	897
	女性	4.6	3.1	1.6	2.6	12.1	24.0	5.2	6.6	10.3	10.2	18.2	50.6	1.3	0.8	3.5	1.1	6.8	8.7	7.8	0.5	1.7	977
奨 学 金 別	受けている	6.3	5.2	0.6	2.4	8.3	22.8	5.7	8.5	6.3	12.0	18.6	51.1	2.5	0.8	2.7	2.1	8.1	6.5	9.0	0.6	2.0	867
	受けていない	5.9	3.4	1.7	2.5	9.5	23.1	7.0	6.0	8.0	10.0	17.2	48.2	1.4	0.5	3.0	1.1	5.9	10.5	9.5	0.6	2.1	1028

※下線数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上多いことを示す

※濃い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より15ポイント以上多いことを示す

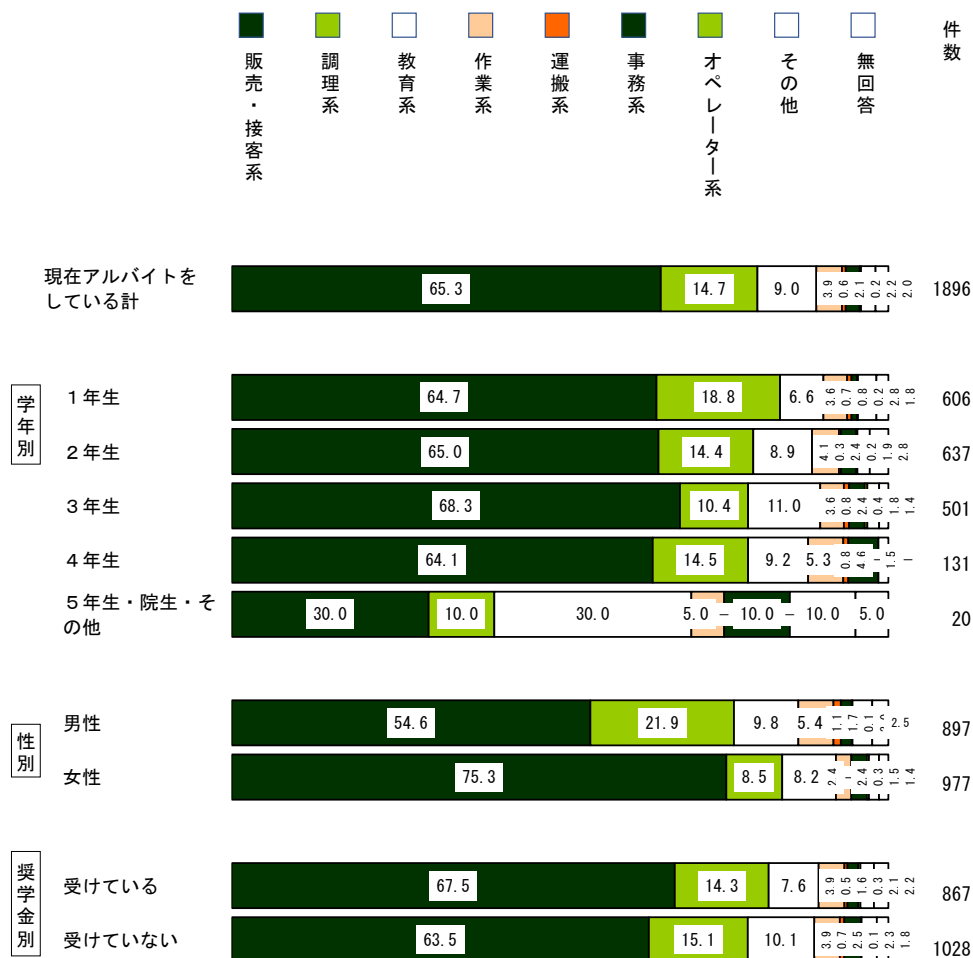
※件数30以下なら網掛等非表示

(2) 仕事

現在のアルバイトの仕事は、「販売・接客系」が65.3%と全体の3分の2を占める。それ以外では、「調理系」(14.7%)が1割台半ば、「教育系」(9.0%)が1割弱などとなっている(第2-6図)。

「販売・接客系」が多数を占める点は共通しているが、「販売・接客系」は女性で75.3%と多数に及び、男性に比べて多い。男性については、「調理系」が2割を占め、女性を上回る。

第2-6図 現在のアルバイトの仕事



(3) 従業員数

現在のアルバイト先の従業員数を「知っている」は43.6%である。

第2-5表は、「知っている」と回答した学生のアルバイト先の雇用形態別の従業員数である。

アルバイト先の正社員の数「10人未満」が9割を超え、平均21.8人（中央値：2.0人）である。業種別みると、外食と教育では「10人未満」が多い一方、その他サービスでは平均182.9人と正社員が多数いるアルバイト先で勤務しているケースもある。

正社員以外については、「10人以上（50人未満）」が全体の約3分の2を占め、平均82.5人（中央値：19.0人）である。小売では「10人未満」が3割近くと他の業種に比べて多い。また、その他サービスについては、「100人以上」が1割強と多くなっている。平均値でみると、いずれの業種も正社員以外が正社員を上回っている。

第2-5表 雇用形態別従業員数（アルバイト先の従業員数を知っている方）

	正社員							正社員以外							件数
	10人未満	10人以上	50人以上	100人以上	無回答	中央値・人	平均値・人	10人未満	10人以上	50人以上	100人以上	無回答	中央値・人	平均値・人	
現在アルバイトをしている計	91.0	5.9	...	0.6	2.4	2.0	21.8	22.8	64.9	8.1	2.5	1.7	19.0	82.5	826
業種別 小売	88.3	8.8	...	0.6	2.3	3.0	22.0	28.7	67.3	1.2	2.3	0.6	15.0	117.8	171
外食	94.1	3.1	...	0.4	2.4	2.0	7.8	18.8	67.2	10.7	1.8	1.5	20.0	26.4	457
教育	95.7	2.9	...	...	1.4	2.0	2.5	24.3	68.6	4.3	...	2.9	14.5	18.9	70
その他サービス	79.6	16.7	...	3.7	...	3.5	182.9	16.7	61.1	9.3	11.1	1.9	20.0	594.8	54

※下線数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上少ないことを示す

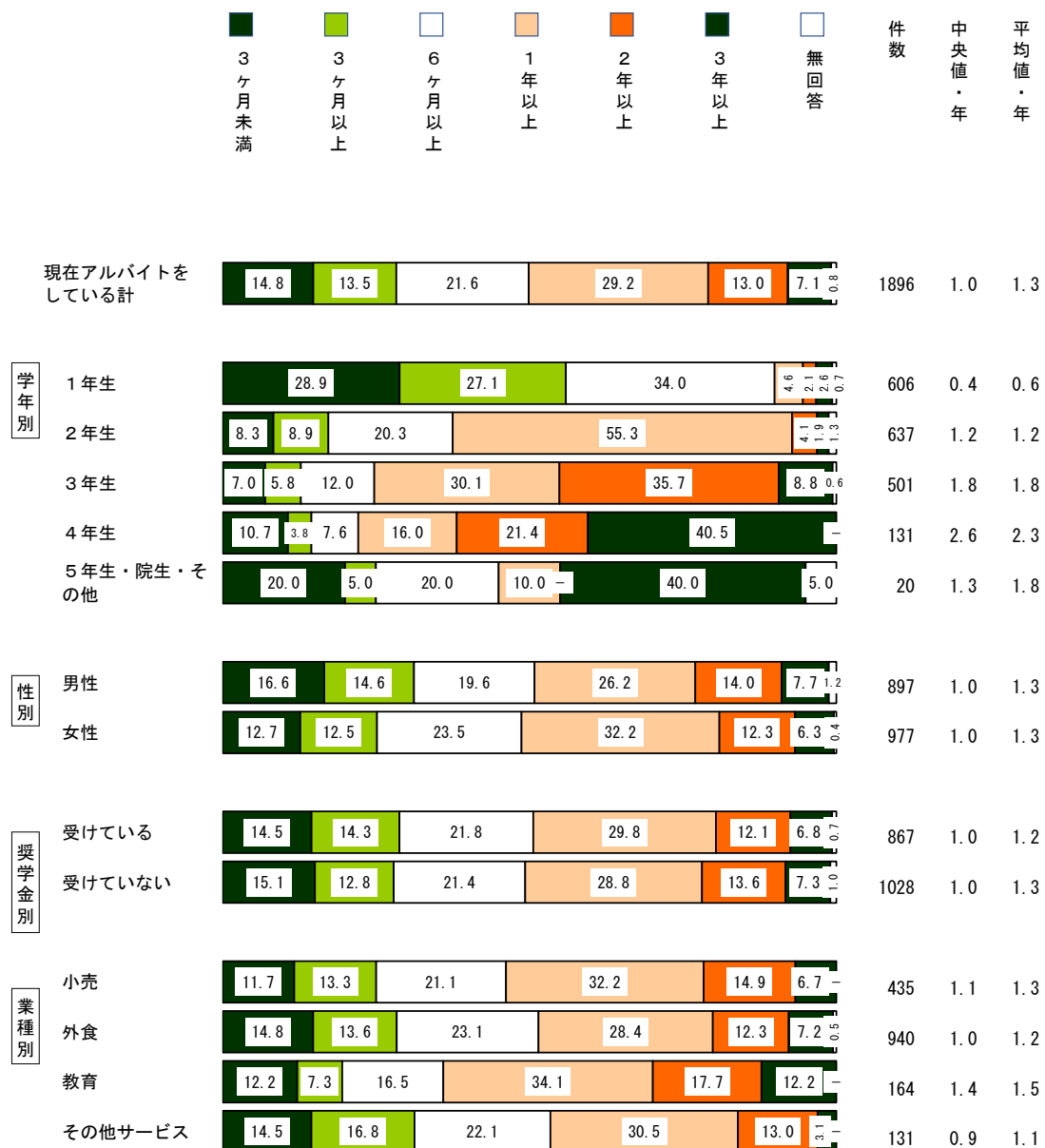
※薄い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上多いことを示す

6. 現在のアルバイト先での勤務期間

現在のアルバイト先での勤務期間は「1年以上（2年未満）」（29.2%）が3割と最も多いが、「3ヶ月未満」から「3年以上」まで回答は分散している。平均の勤務期間は1.3年（中央値：1.0年）である。平均勤務期間は1年生（0.6年）から4年生（2.3年）にかけ学年が上がるにつれて長くなる傾向がみられる。4年生では4割が現在のアルバイト先で「3年以上」勤務している（第2-7図）。

業種別にみると、教育で2年以上勤務している割合がやや多いが、平均年数は1.1～1.5年と大差はない。

第2-7図 現在のアルバイト先での勤務期間



7. アルバイト先の探し方

(1) アルバイト探しの情報源

アルバイトを探す際の情報源（複数選択）は、「アルバイト求人アプリ」が55.2%と最も多く、現在アルバイトをしている学生の過半数がこれをあげている。以下、比率は下がり、「友人・知人・家族の話」（33.3%）と「アルバイト求人サイト」（27.7%）が3割前後、「企業・店舗のホームページ」（11.4%）と「店舗の張り紙」（7.9%）がそれぞれ1割前後を占める（第2-6表）。

「アルバイト求人アプリ」が最も多い点はいずれの層でも共通しているが、1、2年生では6割近くを占め、3年生以上に比べて多くなっている。また、女性は「アルバイト求人サイト」が3割強を占め、男性に比べて多い。

業種別にみると、「アルバイト求人アプリ」は外食とその他サービスで6割台と多いほか、教育では「通っていた店や塾からの声かけ」、その他サービスでは「友人・知人・家族の話」がそれぞれ4割前後を占め、他の業種を上回っている。また、小売では、「企業・店舗のホームページ」と「店舗の張り紙」が1～2割を占め、他の業種に比べて多い。

第2-6表 アルバイトを探す情報源（複数選択）

	アルバイト求人アプリ	アルバイト求人サイト	友人・知人・家族の話	通っていた店や塾からの声かけ	SNS	企業・店舗のホームページ	口コミサイト	店舗の張り紙	アルバイト求人誌	テレビCM	その他	無回答	件数
現在アルバイトをしている計	55.2 ①	27.7 ③	33.3 ②	5.6	4.2	11.4 ④	1.8	7.9 ⑤	1.5	0.2	2.0	1.1	1896
学年別													
1年生	58.4 ①	27.1 ③	31.7 ②	4.1	5.3	10.2 ④	2.0	9.7 ⑤	1.3	0.3	1.8	1.7	606
2年生	58.2 ①	29.2 ③	34.1 ②	5.3	3.9	11.8 ④	1.6	7.5 ⑤	0.9	...	2.0	1.1	637
3年生	49.7 ①	27.7 ③	33.3 ②	7.8 ⑤	3.6	12.0 ④	2.0	7.2	2.6	0.2	1.6	0.4	501
4年生	48.1 ①	22.1 ③	35.9 ②	5.3 ⑤	3.1	10.7 ④	1.5	4.6	1.5	...	3.8	0.8	131
5年生・院生・その他	50.0	35.0	35.0	10.0	...	25.0	5.0	5.0	...	...	...	5.0	20
性別													
男性	54.1 ①	21.1 ③	35.7 ②	5.4	4.2	8.5 ④	1.3	7.2 ⑤	1.8	0.3	2.3	1.6	897
女性	56.7 ①	34.0 ②	30.9 ③	5.9	4.2	14.1 ④	2.4	8.5 ⑤	1.3	...	1.5	0.6	977
奨学金別													
受けている	52.1 ①	28.3 ③	34.8 ②	4.5	5.3	10.4 ④	1.8	8.4 ⑤	1.4	0.1	2.3	0.9	867
受けていない	57.8 ①	27.2 ③	32.0 ②	6.6	3.2	12.3 ④	1.8	7.4 ⑤	1.7	0.2	1.7	1.3	1028
業種別													
小売	54.3 ①	32.4 ②	29.0 ③	1.4	4.1	18.9 ④	2.3	13.3 ⑤	3.0	0.2	0.5	0.5	435
外食	60.3 ①	26.1 ③	34.5 ②	2.1	3.6	10.1 ④	1.8	8.2 ⑤	1.1	0.1	1.2	0.6	940
教育	34.8 ②	29.9 ③	24.4 ④	42.1 ①	3.7	6.1 ⑤	2.4	1.8	0.6	...	3.7	0.6	164
その他サービス	61.8 ①	31.3 ③	39.7 ②	2.3	9.2 ⑤	12.2 ④	1.5	2.3	0.8	...	1.5	...	131

※下線数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上多いことを示す

※濃い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より15ポイント以上多いことを示す

※丸数字は比率の順位（第5位まで表示）

※件数30以下なら網掛等非表示

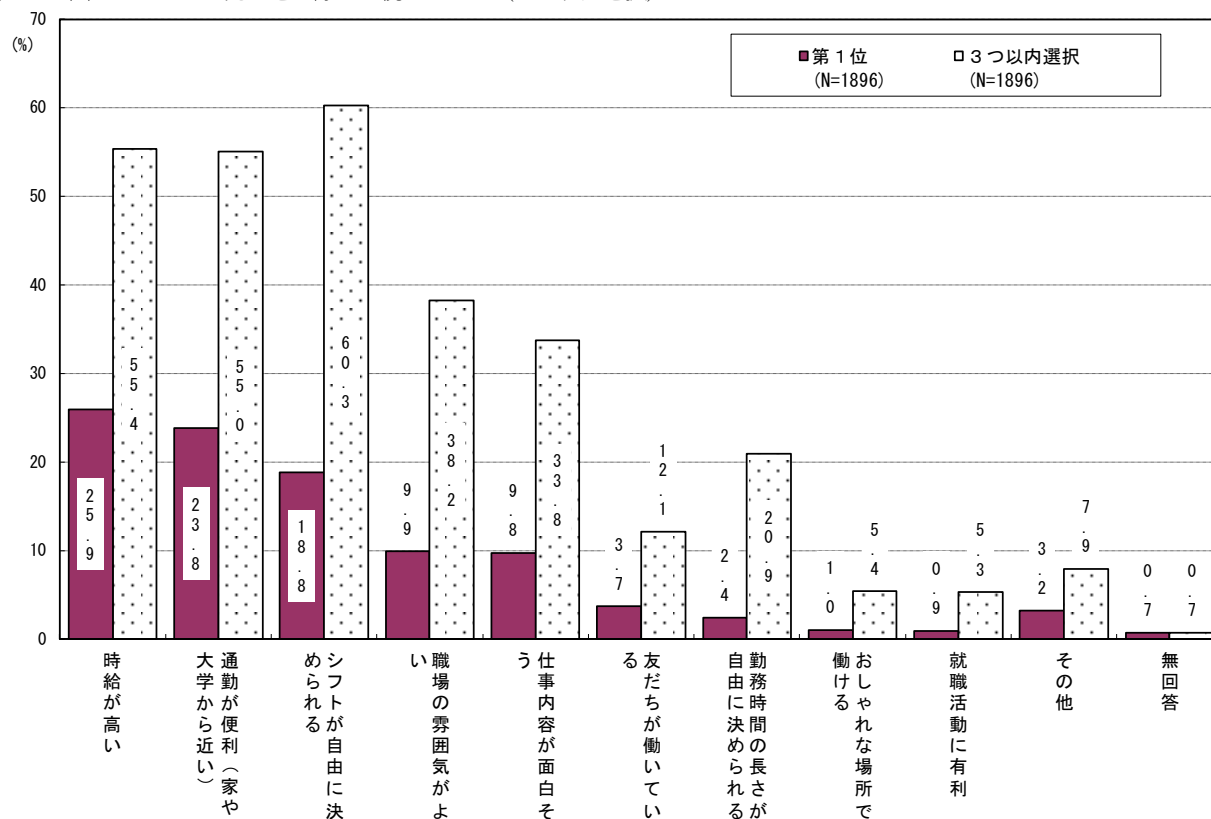
(2) アルバイト先を選ぶ際に重視したこと

アルバイト先を選ぶ際に重視したことについて、順位をつけて3つ以内でたずねた。

第2-8図から第1位にあげられた項目をみると、「時給が高い」(25.9%)と「通勤が便利(家や大学から近い)」(23.8%)、「シフトが自由に決められる」(18.8%)が2~3割と上位を占める。これに「職場の雰囲気がよい」(9.9%)と「仕事内容が面白そう」(9.8%)が1割ずつで続いている。

3つ以内選択の結果をみると、「シフトが自由に決められる」が60.3%と最も多く、これに「時給が高い」(55.4%)と「通勤が便利」(55.0%)が5割台半ばで続き、以下、「職場の雰囲気がよい」(38.2%)、「仕事内容が面白そう」(33.8%)に加え、「勤務時間の長さが自由に決められる」(20.9%)が2割を占める。

第2-8図 アルバイト先を選ぶ際に重視したこと（3つ以内選択）



第2-7表から3つ以内選択の結果をみると、概ね上位にあげられている項目は共通している。

学年別にみると、4年生で「勤務時間の長さが自由に決められる」が3割近くとやや多くなっている。

業種別にみると、小売では、「通勤が便利」が最も多く、3人に2人がこれをあげており、「時給が高い」や「仕事内容が面白そう」は他の業種に比べて少なくなっている。また、教育とその他サービスでは「時給が高い」が6割強、「仕事内容が面白そう」が4割台半ばと小売や外食に比べて多いほか、「就職活動に有利」の割合も相対的に多い。

第2-7表 アルバイト先を選ぶ際に重視したこと（3つ以内選択）

		時給が高い	シフトが自由 に決められる	勤務時間の長さが自由	仕事内容が面白そう	職場の雰囲気がよい	ける おしゃれな場所 で働ける	通勤が便利（家や大学から近い）	友だちが働いている	就職活動に有利	その他	無回答	件数
	現在アルバイトをしている計	55.4 ②	60.3 ①	20.9	33.8 ⑤	38.2 ④	5.4	55.0 ③	12.1	5.3	7.9	0.7	1896
学年別	1年生	55.0 ②	61.2 ①	21.5	33.0 ⑤	40.3 ④	5.6	52.0 ③	12.2	3.5	10.1	0.5	606
	2年生	57.6 ③	59.3 ①	18.2	32.2 ⑤	38.9 ④	4.9	58.4 ②	11.6	5.2	7.5	0.9	637
	3年生	52.1 ③	58.9 ①	22.8	35.3 ⑤	37.1 ④	6.6	54.9 ②	13.2	7.8	6.4	0.6	501
	4年生	58.8 ②	64.9 ①	26.0	37.4 ④	29.0 ⑤	3.1	53.4 ③	11.5	5.3	6.1	...	131
	5年生・院生・その他	60.0	70.0	15.0	40.0	45.0	...	50.0	...	...	...	5.0	20
性別	男性	57.0 ②	59.5 ①	21.1	35.8 ④	35.3 ⑤	4.6	51.2 ③	16.1	5.0	7.1	1.0	897
	女性	54.2 ③	61.1 ①	20.8	31.8 ⑤	40.9 ④	6.1	58.9 ②	8.2	5.4	8.6	0.3	977
奨学金別	受けている	57.3 ②	61.4 ①	21.0	30.8 ⑤	36.7 ④	5.9	51.7 ③	13.6	5.7	9.2	0.7	867
	受けていない	53.7 ③	59.4 ①	20.9	36.3 ⑤	39.5 ④	5.0	57.9 ②	10.8	4.9	6.8	0.7	1028
業種別	小売	48.7 ③	59.1 ②	25.5	28.0 ⑤	40.7 ④	5.1	66.4 ①	10.1	4.1	8.7	...	435
	外食	55.9 ②	62.4 ①	21.1	30.5 ⑤	40.2 ④	7.1	54.9 ③	13.4	2.4	8.0	0.2	940
	教育	61.6 ①	45.1 ④	11.6	45.7 ③	40.2 ⑤	...	56.1 ②	9.1	18.3	6.1	...	164
	その他サービス	64.9 ①	60.3 ②	13.7	45.8 ③	35.1 ⑤	4.6	39.7 ④	13.0	10.7	9.2	0.8	131

※下線数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上多いことを示す

※丸数字は比率の順位（第5位まで表示）

※件数30以下なら網掛等非表示

8. 雇用契約書と給与明細の受け取り

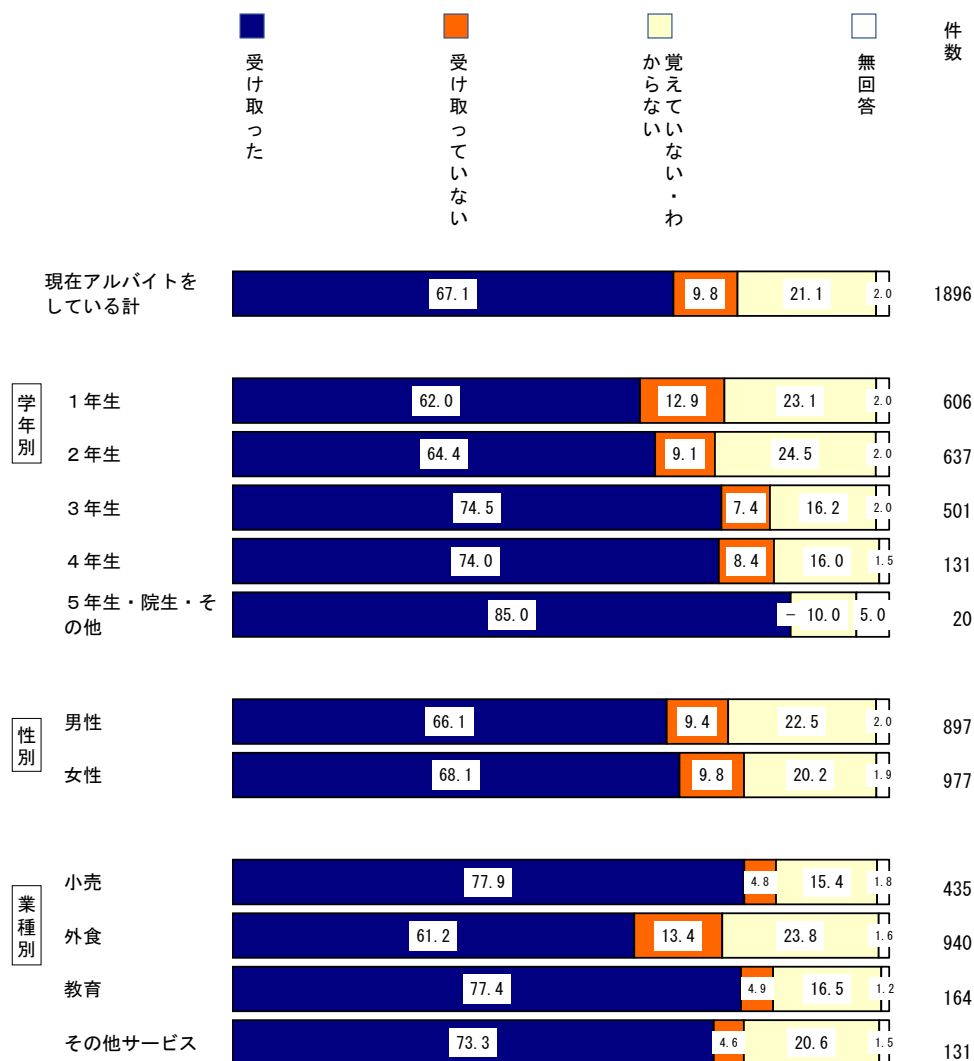
(1) アルバイト先からの雇用契約書の受け取り

アルバイト先から雇用契約書を「受け取った」は67.1%を占め、「受け取っていない」(9.8%)は1割程度にとどまっている。ただし、「覚えていない・わからない」(21.1%)も2割強を占める(第2-9図)。

「受け取った」は学年が上がるにつれて多くなる傾向があり、3、4年生では7割台半ばを占める。一方、1、2年生では「覚えていない・わからない」が2割強と相対的に多い。

業種別にみると、外食で「受け取った」が6割強と他の業種に比べて10ポイント以上少なく、「受け取っていない」が1割強、「覚えていない・わからない」が2割強を占める。

第2-9図 アルバイト先からの雇用契約の受け取りの有無



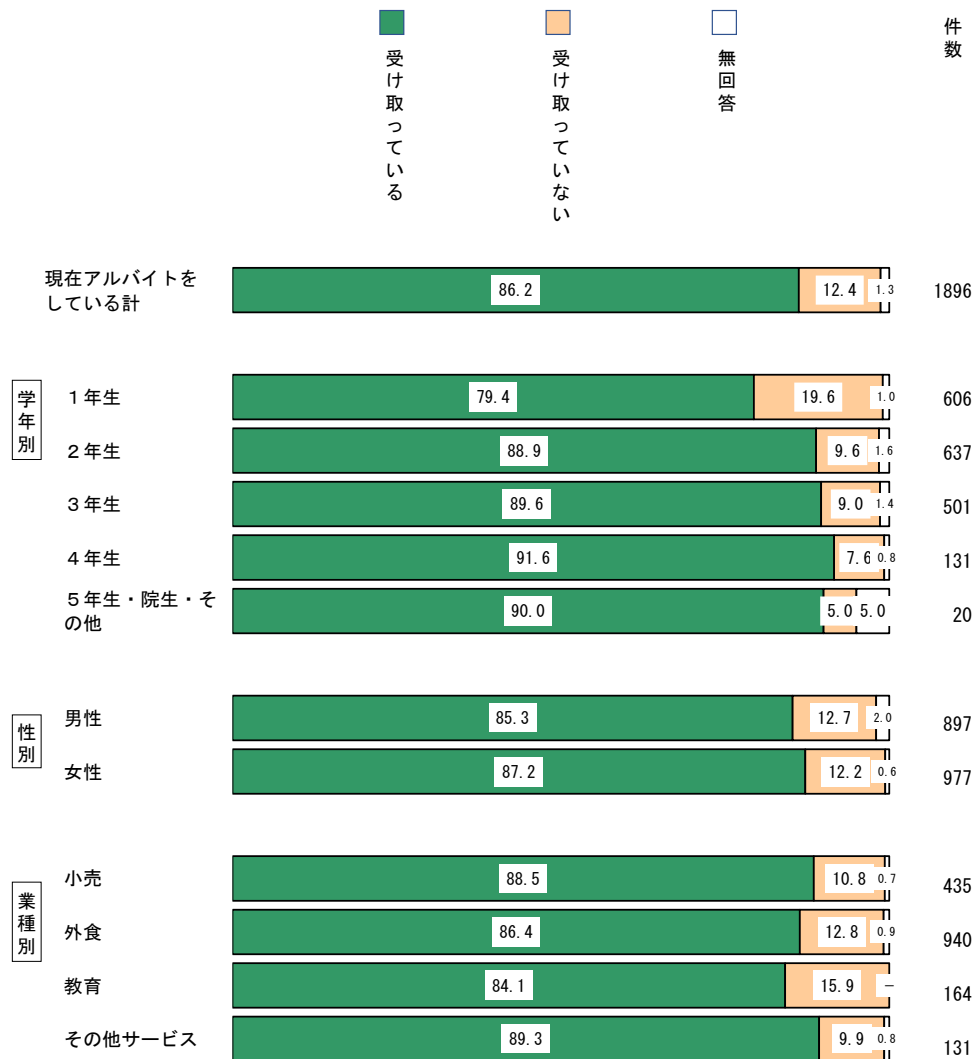
（２）給与明細の受け取り

給与明細の受け取りについては、「受け取っている」が 86.2%と多数に及んでいる。一方、「受け取っていない」は 12.4%である（第 2－10 図）。

「受け取っている」が多数を占める点は共通しているが、1 年生では「受け取っていない」が 2 割を占め、2 年生以上に比べて 10 ポイント程度多い。

業種別では目立った違いはないが、教育で「受け取っていない」がやや多くなっている。

第 2－10 図 給与明細の受け取りの有無



9. アルバイトの賃金

(1) 時給額

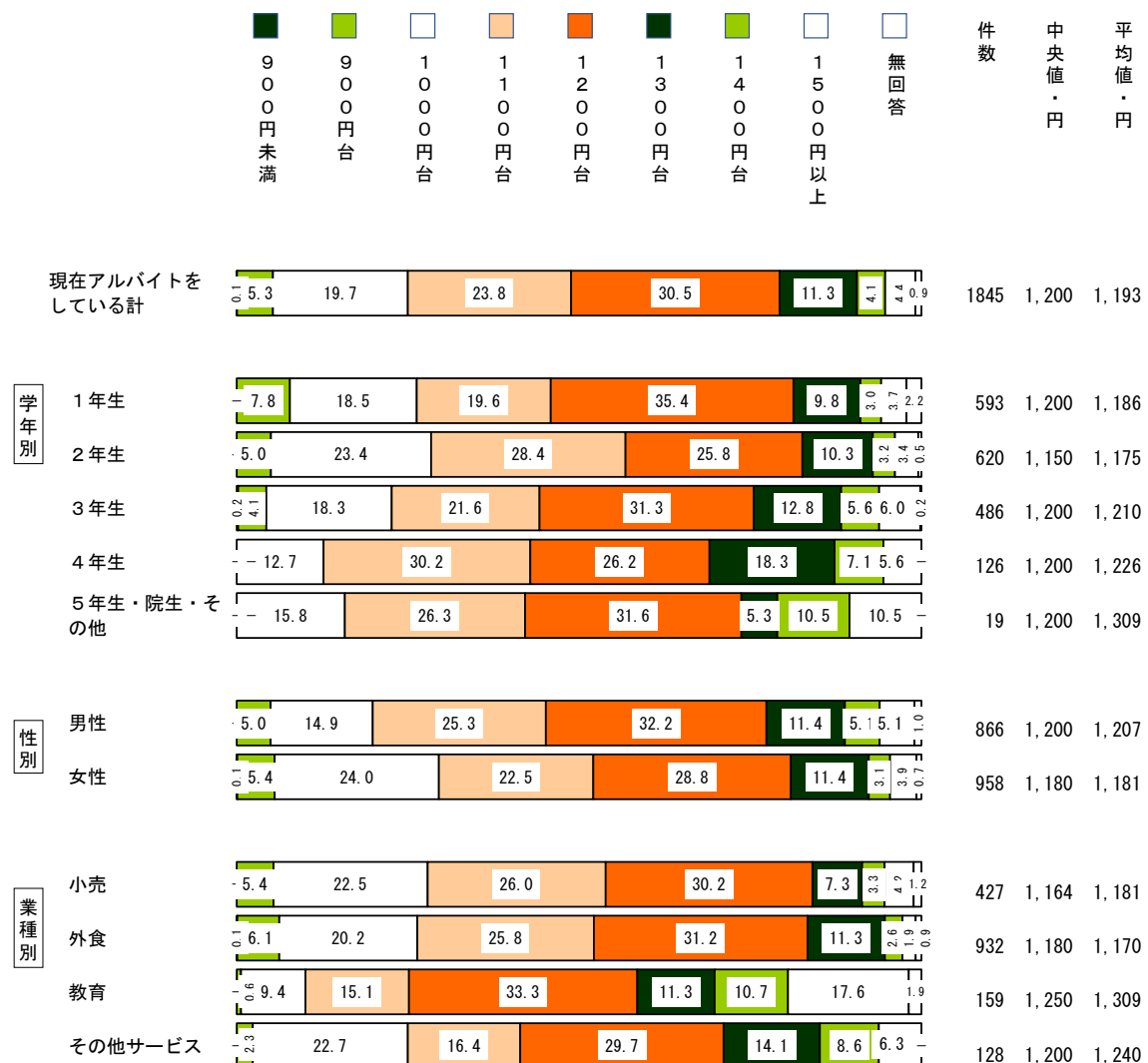
アルバイト賃金の計算方法は97.3%が「時給」で「日給」は1.2%にとどまった。

「時給」と回答した学生の時給額をみると、「1200 円台」(30.5%) が3割と最も多く、「1100 円台」(23.8%) と「1000 円台」(19.7%) がともに2割前後を占め、1000 円台～1200 円台が全体の4分の3を占める。平均額は1,193 円(中央値:1,200 円)である(第2-11 図)。

都道府県ごとの最低賃金額の違いを考慮する必要があるが、学年別にみると、平均額は1、2年生に比べて3、4年生で高い。性別でみると、男性は平均1,207 円で女性(1,181 円)を26 円上回っている。

業種別では、教育で1200 円以上の割合が際立って多く、「1500 円以上」も2割近くを占める。教育の平均額は1,309 円と最も高い一方、最も低い外食は1,170 円と、139 円の差がある。

第2-11 図 時給額(賃金の計算方法が時給の方)



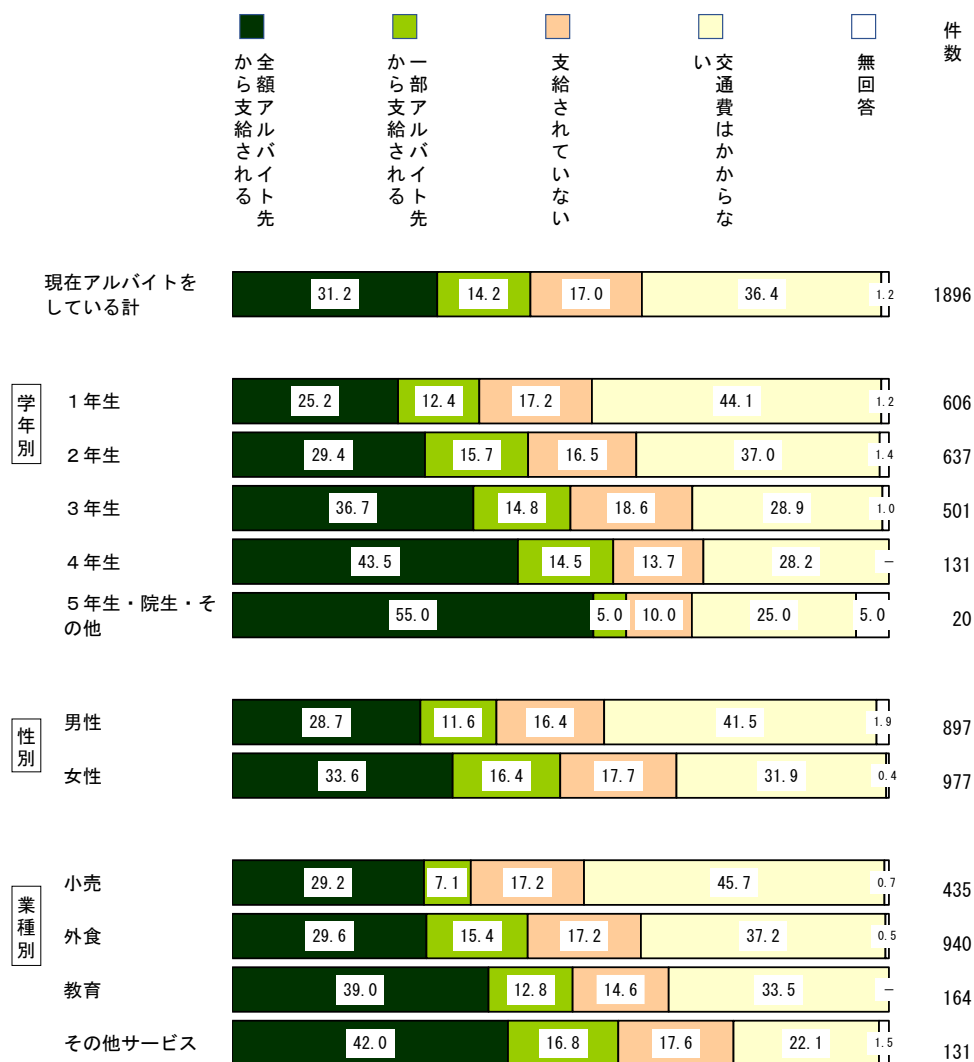
(2) 交通費の支給

交通費の支給について、アルバイト先が自宅や学校の近くなど「交通費はかからない」は36.4%と全体の3分の1程度を占める。交通費がかかる学生のうち、「全額アルバイト先から支給される」(31.2%)が最も多く、これに「一部アルバイト先から支給される」(14.2%)を合わせると5割近くを占める。一方、「支給されていない」(17.0%)も2割近くと少なくない(第2-12図)。

学年別にみると、学年が上がるにつれて「全額アルバイト先から支給される」が多くなる傾向がみられる。性別では、男性は「交通費はかからない」が女性に比べて10ポイント程度多い一方、女性は「全額」または「一部」アルバイト先から支給される割合が多い。

業種別にみると、小売と外食については「全額支給される」は3割程度となっているが、教育やその他サービスでは4割前後と差がみられる。

第2-12図 交通費支給の有無



(3) アルバイト賃金が上がる要因

アルバイト賃金が上がる要因について、複数選択でたずねたところ、「最低賃金が上がると上がる」が36.0%と最も多く、これに「働いている期間が長くなると上がる」(28.4%)、「バイトリーダーになると上がる」(14.1%)が続いている。一方で、「賃金は上がらない」(13.9%)も1割強を占めるほか、「わからない」(16.9%)も少ない(第2-8表)。

学年別にみると、1年生では、「最低賃金が上がると上がる」が3割弱と少なく、「わからない」が2割強を占め、2年生以上に比べて多くなっている。また、「バイトリーダーになると上がる」は1、2年生よりも3、4年生でやや多い。

業種別では、小売で「最低賃金が上がると上がる」が4割強と他の業種に比べて多い。そのほか、外食では「バイトリーダーになると上がる」、その他サービスでは「働いている期間が長くなると上がる」、「研修を受けると上がる」が相対的に多い。

第2-8表 アルバイト賃金が上がる要因(複数選択)

	働いていないと いう期間が長 くなる	バイトリーダー になる	研修を受けると 上がる	試験を受けると 上がる	最低賃金が上 がる	組合が会社と 交渉し	友人などを紹 介する	その他	賃金は上 がらない	わ か ら な い	無 回 答	件 数
現在アルバイトを している計	28.4 ②	14.1 ④	8.8	8.5	36.0 ①	0.5	1.2	6.1	13.9 ⑤	16.9 ③	1.1	1896
学 年 別												
1年生	27.1 ②	13.2 ⑤	7.9	8.9	28.5 ①	0.2	0.8	6.1	13.4 ④	23.4 ③	1.5	606
2年生	28.7 ②	12.2 ⑤	9.6	8.6	37.7 ①	0.3	1.9	5.3	15.1 ③	14.4 ④	0.8	637
3年生	29.1 ②	15.8 ③	8.8	8.2	41.9 ①	0.6	0.6	7.0	13.2 ④	12.0 ⑤	1.0	501
4年生	31.3 ②	21.4 ③	9.2	8.4	37.4 ①	1.5	1.5	5.3	13.0 ⑤	19.1 ④	...	131
5年生・院生・そ その他	20.0	10.0	5.0	5.0	45.0	5.0	...	15.0	15.0	5.0	5.0	20
性 別												
男性	28.8 ②	14.9 ④	7.7	8.5	32.9 ①	0.6	1.3	5.6	13.3 ⑤	19.0 ③	1.8	897
女性	28.1 ②	13.3 ⑤	9.7	8.8	39.0 ①	0.4	1.0	6.8	14.1 ④	15.0 ③	0.3	977
業 種 別												
小売	20.0 ②	3.7 ③	5.7	7.6 ⑤	41.1 ①	1.4	0.7	5.5	16.3 ④	19.3 ③	0.2	435
外食	31.7 ②	20.1 ③	9.8	8.9	35.7 ①	0.2	0.9	6.0	10.4 ⑤	16.0 ④	0.6	940
教育	32.9 ②	12.8 ④	7.9	6.7	35.4 ①	...	2.4	9.1	18.3 ③	12.8 ④	0.6	164
その他サービス	36.6 ①	15.3 ⑤	17.6 ④	13.0	34.4 ②	0.8	2.3	4.6	18.3 ③	9.9 ③	0.8	131

※下線数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上多いことを示す

※丸数字は比率の順位(第5位まで表示)

※件数30以下なら網掛等非表示

(4) アルバイト先の手当・インセンティブ

アルバイト先にある手当・インセンティブについてみると、「深夜・早朝手当」が46.4%と5割近くを占め、「土日・祝日手当」(23.4%)も2割強を占める。また、「時間帯手当」(8.4%)も1割近くを占める。一方、「手当はない」(21.3%)が2割を占めるほか、「わからない」(12.9%)といった回答も1割強を占める(第2-9表)。

性別にみると、男性で「深夜・早朝手当」が5割強を占め、女性に比べて多くなっており、男性の方が深夜や早朝に働いている割合が多いことがうかがわれる。

また、業種別にみると、「深夜・早朝手当」は外食とその他サービスで6割近くを占め、他の業種を上回る。また、教育については、「手当はない」が4割台半ばと際立って多い。

第2-9表 アルバイト先にある手当・インセンティブ(複数選択)

		土日・祝日手当	深夜・早朝手当	応援手当	時間帯手当	給出勤日数に応じて支給される手当	その他の手当	手当はない	わからない	無回答	件数
	現在アルバイトをしている計	23.4 ②	46.4 ①	3.8	8.4	2.6	10.7	21.3 ③	12.9 ④	1.4	1896
学年別	1年生	23.6 ②	47.2 ①	2.3	7.9	3.5	8.9	18.0 ③	17.8 ④	1.3	606
	2年生	26.2 ②	45.8 ①	4.4	7.7	1.9	10.8	22.0 ③	11.1 ④	1.4	637
	3年生	19.8 ③	45.9 ①	4.6	9.4	3.0	12.6 ④	23.4 ②	10.0	1.6	501
	4年生	23.7 ③	48.1 ①	4.6	10.7 ④	1.5	9.9	24.4 ②	9.9	...	131
	5年生・院生・その他	15.0	40.0	5.0	10.0	...	20.0	25.0	10.0	5.0	20
性別	男性	24.0 ②	53.1 ①	4.7	9.1	2.5	9.5	17.6 ③	13.8 ④	1.4	897
	女性	22.7 ③	40.5 ①	3.1	8.0	2.7	11.9	24.4 ②	12.1 ④	1.2	977
業種別	小売	26.7 ②	40.7 ①	2.1	12.6 ④	1.8	10.3	21.6 ③	12.0	1.6	435
	外食	28.0 ②	56.7 ①	4.7	7.4	2.1	8.5	16.6 ③	11.4 ④	0.4	940
	教育	6.1 ④	14.0 ④	4.9	4.9	3.0	19.5 ②	44.5 ①	15.9 ③	0.6	164
	その他サービス	19.1 ②	56.5 ①	3.8	10.7	3.1	14.5 ④	16.8 ③	9.9	3.1	131

※下線数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上多いことを示す

※濃い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より15ポイント以上多いことを示す

※丸数字は比率の順位(第4位まで表示)

※件数30以下なら網掛等非表示

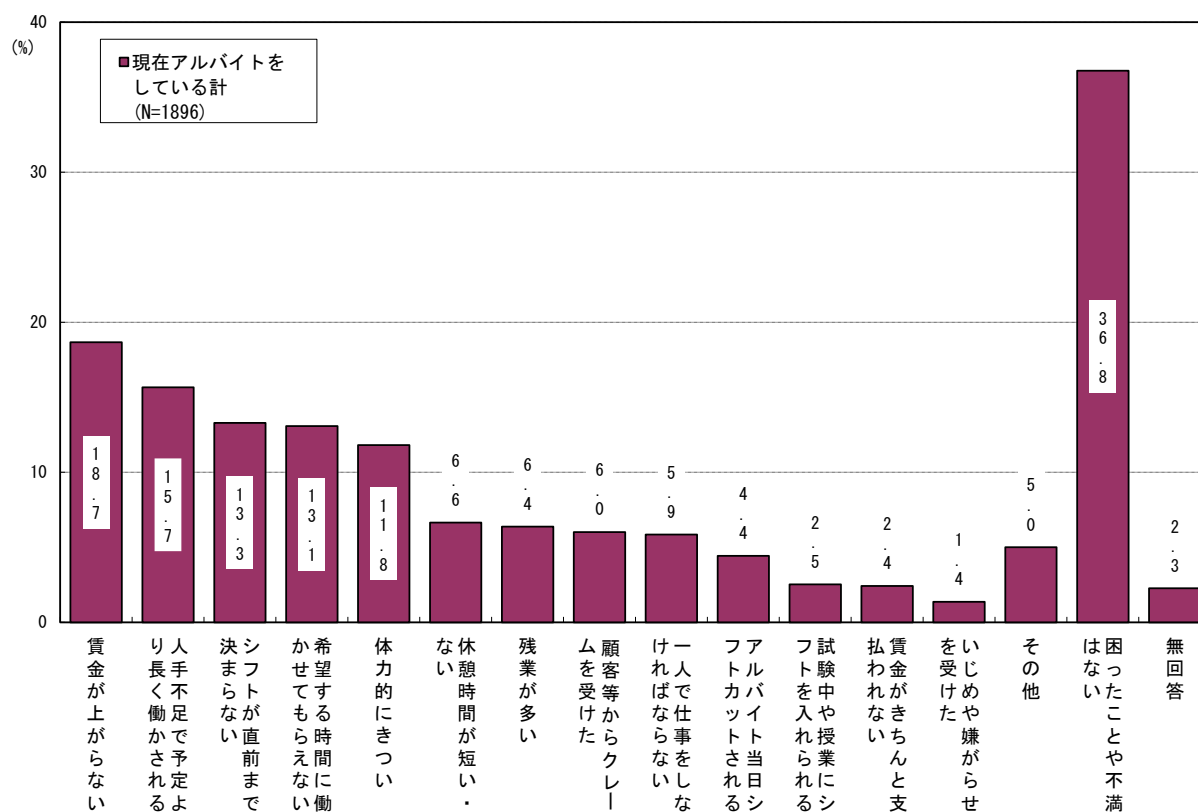
10. 困ったことや不満に感じたこと

(1) 困ったことや不満に感じたこと

アルバイト先で困ったことや不満に感じたことについて複数選択でたずねたところ、「困ったことや不満はない」は 36.8%にとどまり、残りの 6 割程度の学生が何らかの困ったことや不満に感じたことがあることが確認できる（第 2-13 図）。

具体的な内容をみると、「賃金が上がらない」（18.7%）、「人手不足で予定より長く働かされる」（15.7%）、「シフトが直前まで決まらない」（13.3%）、「希望する時間に働かせてもらえない」（13.1%）、「体力的にきつい」（11.8%）がそれぞれ 1 割台を占め、上位にあげられている。

第 2-13 図 アルバイト先で困ったことや不満に感じたこと（複数選択）



学年別では、4年生で「困ったことや不満はない」が多い点以外は目立った違いはない（第2-10表）。

業種別にみると、「困ったことや不満はない」比率は外食でやや少なくなっている。外食では、「希望する時間に働かせてもらえない」、教育では、「休憩時間が短い・ない」、「残業が多い」、「賃金がきちんと支払われない」が他の業種に比べて多くなっている。

第2-10表 アルバイト先で困ったことや不満に感じたこと（複数選択）

	件数	無回答	困ったことや不満はない	その他	体力的にきつい	一人で仕事をしなければならぬ	顧客等からクレームを受けた	いじめや嫌がらせを受けた	シフトが直前まで決まらない	試験中や授業にシフトを入れられる	アルバイト当日シフトカットされる	希望する時間に働かせてもらえない	休憩時間が短い・ない	賃金が上がらない	賃金がきちんと支払われない	人手不足で予定より長く働かされる	残業が多い
現在アルバイトをしている計	1896	2.3	36.8①	5.0	11.8⑥	5.9	6.0	1.4	13.3④	2.5	4.4	13.1⑤	6.6	18.7②	2.4	15.7③	6.4
学年別	1年生	606	2.3	38.1①	5.1	12.2⑥	3.8	5.6	12.5⑤	1.8	4.0	16.8②	6.8	16.0③	1.2	14.4④	4.6
	2年生	637	2.5	36.3①	4.7	12.6⑥	7.1	6.9	15.5④	3.5	4.9	12.7⑤	7.5	18.4②	2.4	17.3③	8.0
	3年生	501	2.4	32.1①	5.6	10.6⑥	6.8	6.0	12.6④	2.6	5.0	10.8⑤	5.6	23.4②	4.4	16.2③	7.2
	4年生	131	…	48.9①	3.1	11.5④	6.1	2.3	9.9⑤	0.8	1.5	6.9⑥	6.1	16.0②	1.5	13.0③	4.6
	5年生・院生・その他	20	5.0	45.0	10.0	10.0	5.0	15.0	5.0	5.0	5.0	10.0	5.0	10.0	…	10.0	…
性別	男性	897	2.9	39.6①	5.0	11.4④	4.6	5.1	9.0⑥	2.5	3.3	10.8⑤	7.1	20.1②	1.4	15.5③	6.9
	女性	977	1.6	33.8①	5.1	12.4⑥	7.0	6.8	17.5③	2.7	5.5	15.5⑤	6.2	17.6②	3.4	15.9④	5.8
業種別	小売	435	2.3	40.2①	6.2	8.5⑥	7.1	9.2⑤	10.3④	2.3	0.9	6.4	4.8	18.6②	1.1	12.4③	3.2
	外食	940	1.7	33.0①	4.3	13.8⑥	6.2	6.2	16.2⑤	2.1	6.4	18.3④	6.6	19.9②	2.2	18.6③	7.1
	教育	164	1.2	39.6①	4.9	5.5	3.0	0.6	10.4⑥	5.5	7.9	6.1	15.2③	19.5②	9.1	15.2③	12.8⑤
	その他サービス	131	2.3	38.9①	3.8	15.3③	2.3	0.8	11.5⑥	3.8	2.3	12.2⑤	7.6	21.4②	2.3	13.7④	1.5

※下線数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上多いことを示す

※丸数字は比率の順位（第6位まで表示）

※件数30以下なら網掛等非表示

（２）困ったことや不満に対してとった行動

困ったことや不満があると回答した学生を対象に困ったことや不満に対してとった行動について複数選択でたずねたところ、「特になにもしなかった」が56.0%と過半数を占める。具体的な行動としては、「アルバイト先の同僚に相談した」が17.8%、「家族に相談した」が15.2%、「アルバイト先の正社員等に相談した」が14.0%、「アルバイト先以外の友人に相談した」が11.5%と回答は分かれている。なお、「アルバイト先の労働組合に相談した」という回答はなかった（第2-11表）。

業種別にみても、目立った違いはないが、教育で「アルバイト先以外の友人に相談した」が2割弱を占め、他の業種に比べて多くなっている。

第2-11表 困ったことや不満に対してとった行動（複数選択）

	アルバイト先 の正社員等 に相談した	アルバイト先 の同僚に 相談した	アルバイト先 の労働組合 に相談した	アルバイト先 以外の友人に 相談した	家族に相談した	その他	特になにも しなかった	無回答	件数
現在アルバイトをしている計	14.0	17.8 ②	...	11.5	15.2 ③	0.6	56.0 ①	1.7	1156
業種別 小売	15.6 ③	15.2	...	10.8	18.8 ②	0.4	55.6 ①	1.6	250
外食	13.7	20.8 ②	...	11.9	14.2 ③	0.5	54.1 ①	1.8	614
教育	12.4	17.5	...	18.6 ②	18.6 ②	1.0	52.6 ①	1.0	97
その他サービス	15.6 ②	15.6 ②	...	11.7	10.4	...	58.4 ①	2.6	77

※下線数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「現在アルバイトをしている計」より5ポイント以上多いことを示す

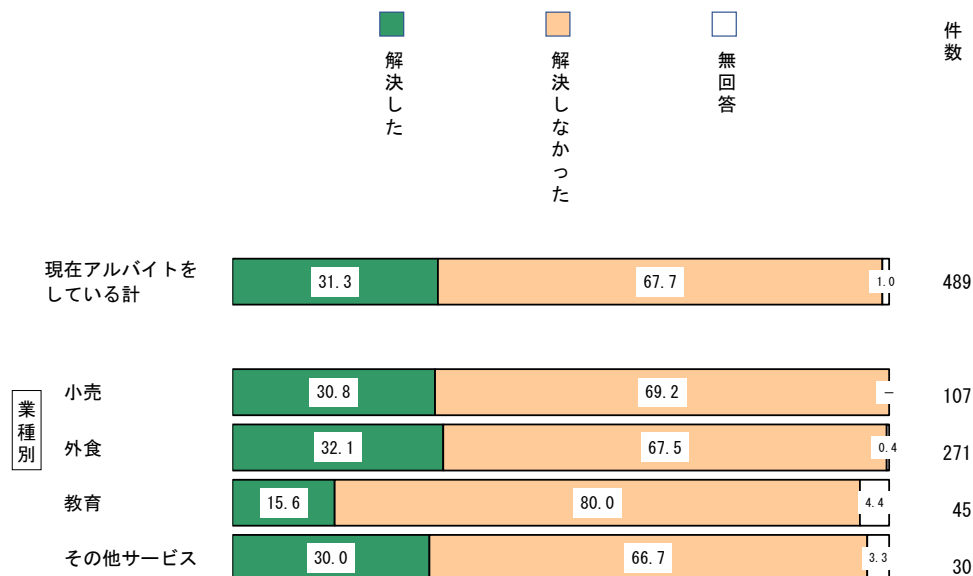
※丸数字は比率の順位（第3位まで表示）

※件数30以下なら網掛け非表示

（３）問題は解決したか

困ったことや不満に対して行動をとった学生のうち、問題が「解決した」は31.3%にとどまり、「解決しなかった」(67.7%)が多数を占める。業種別にみると、「解決した」は教育で15.6%にとどまり、他の業種に比べて少ない（第2-14図）。

第2-14図 相談などをした結果、困ったことや不満に感じたことの解決の有無（行動をとった方）



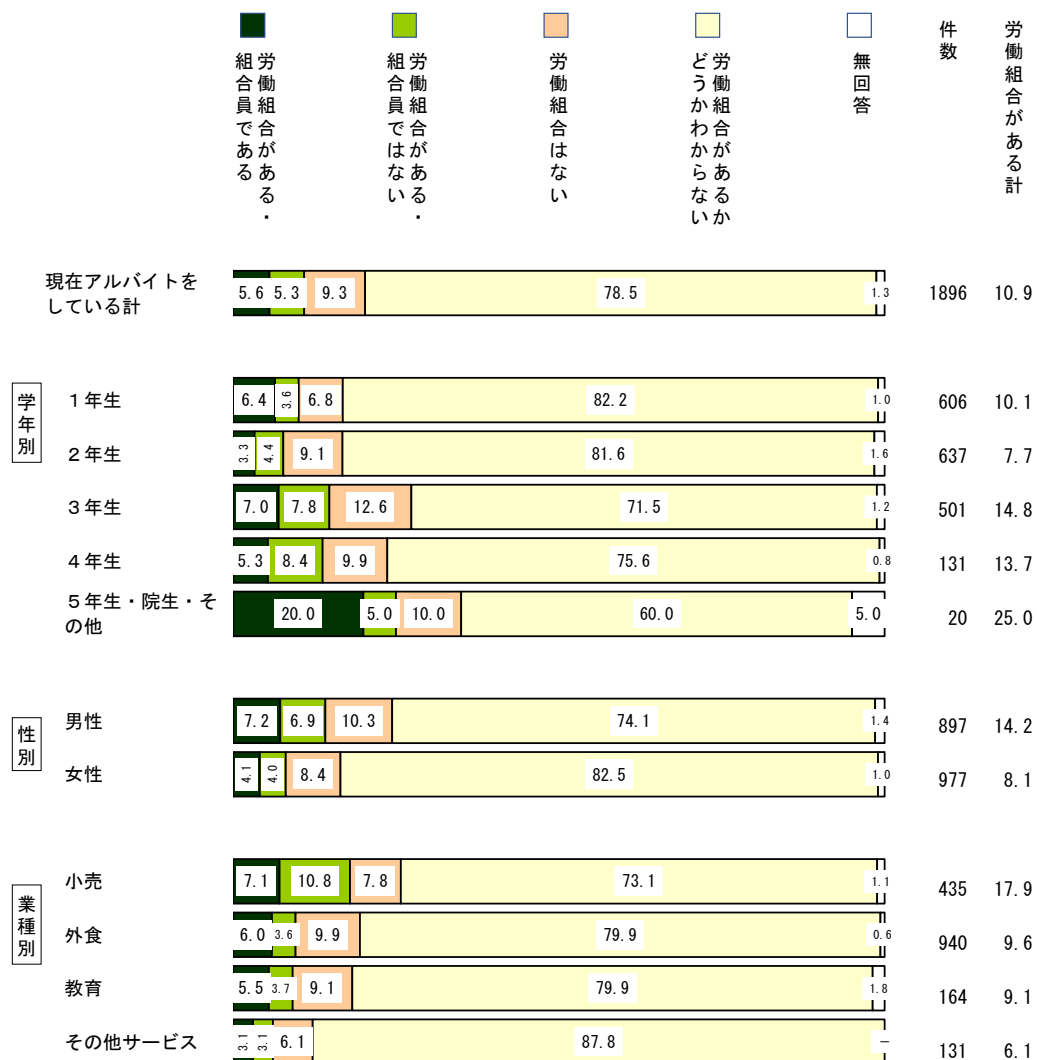
1 1. アルバイト先の労働組合について

アルバイト先の労働組合の有無については、「労働組合があるかどうか分からない」が78.5%と8割近くに及び、労働組合の有無を認識しているのは2割程度にとどまる。「労働組合がある・組合員である」は5.6%で、これに「労働組合がある・組合員ではない」(5.3%)を合わせた＜労働組合がある＞は1割を占める(第2-15図)。

「労働組合があるかどうか分からない」が多数を占める点はいずれの層でも共通しているが、学年別では1、2年生、性別では女性で8割強と多い。

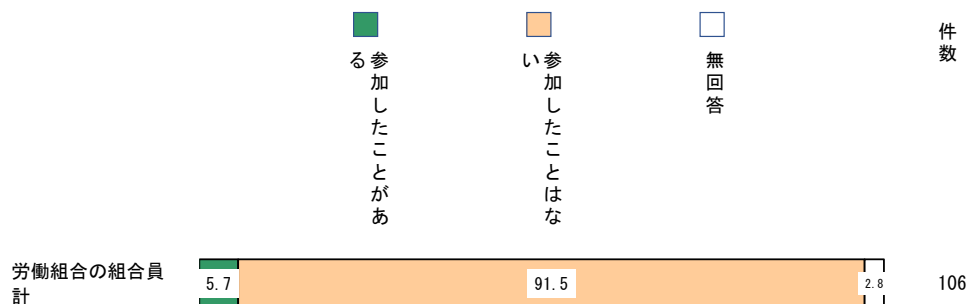
業種別にみると、「労働組合があるかどうか分からない」はその他サービスで87.8%と9割近くに達している。一方で、小売の同割合は7割強と相対的に少なく、＜労働組合がある＞は17.9%と他の業種に比べて多い。

第2-15図 アルバイト先の労働組合の有無



アルバイト先に労働組合があり、組合員であると回答した学生を対象に、労働組合のイベントへの参加状況を見ると、「参加したことはない」が91.5%と多数を占め、「参加したことがある」は5.7%にとどまる（第2-16図）。

第2-16図 組合のイベントに参加したことの有無（アルバイト先の労働組合の組合員の方）



1 2. アルバイト先の企業への就職希望

大学卒業後、アルバイト先の企業への就職希望をみると、「就職したくない」が75.1%と全体の4分の3を占める。「就職したい」は2.5%とごくわずかにとどまり、それ以外では、「わからない」(17.6%)が2割近くを占める(第2-17図)。

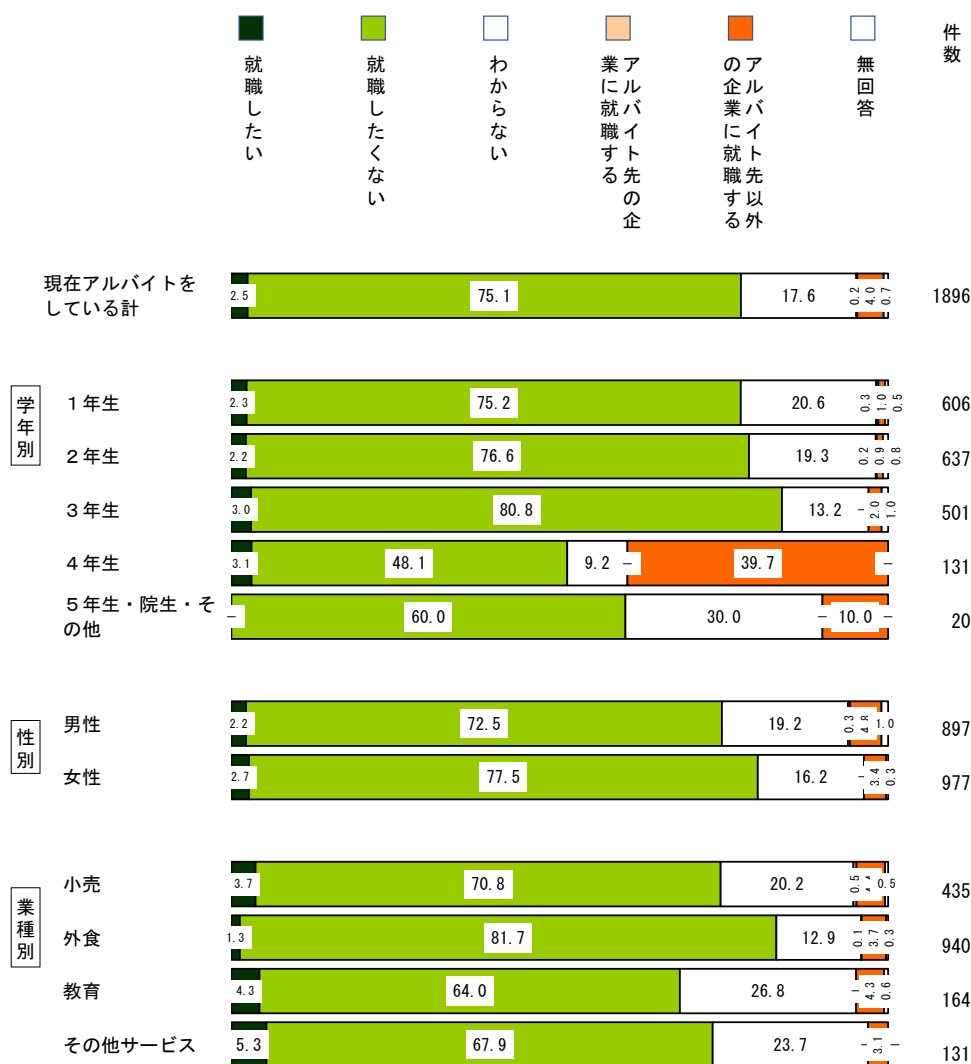
いずれの層も「就職したい」はごくわずかにとどまる。

学年別にみると、4年生では、「アルバイト先以外の企業に就職する」が4割を占めるが、「アルバイト先の企業に就職する」学生はいない。

性別では、男性に比べて女性で「就職したくない」が多い。

業種別では、外食で「就職したくない」が8割強を占め、他の業種に比べて10ポイント以上多い。

第2-17図 大学卒業後、アルバイト先の企業への就職希望



第3章 アルバイト先でのハラスメントの経験

以下では、「現在アルバイトをしている」、「過去にしたが現在はしていない」と回答したアルバイト経験がある大学生（2,082名）を対象にする。

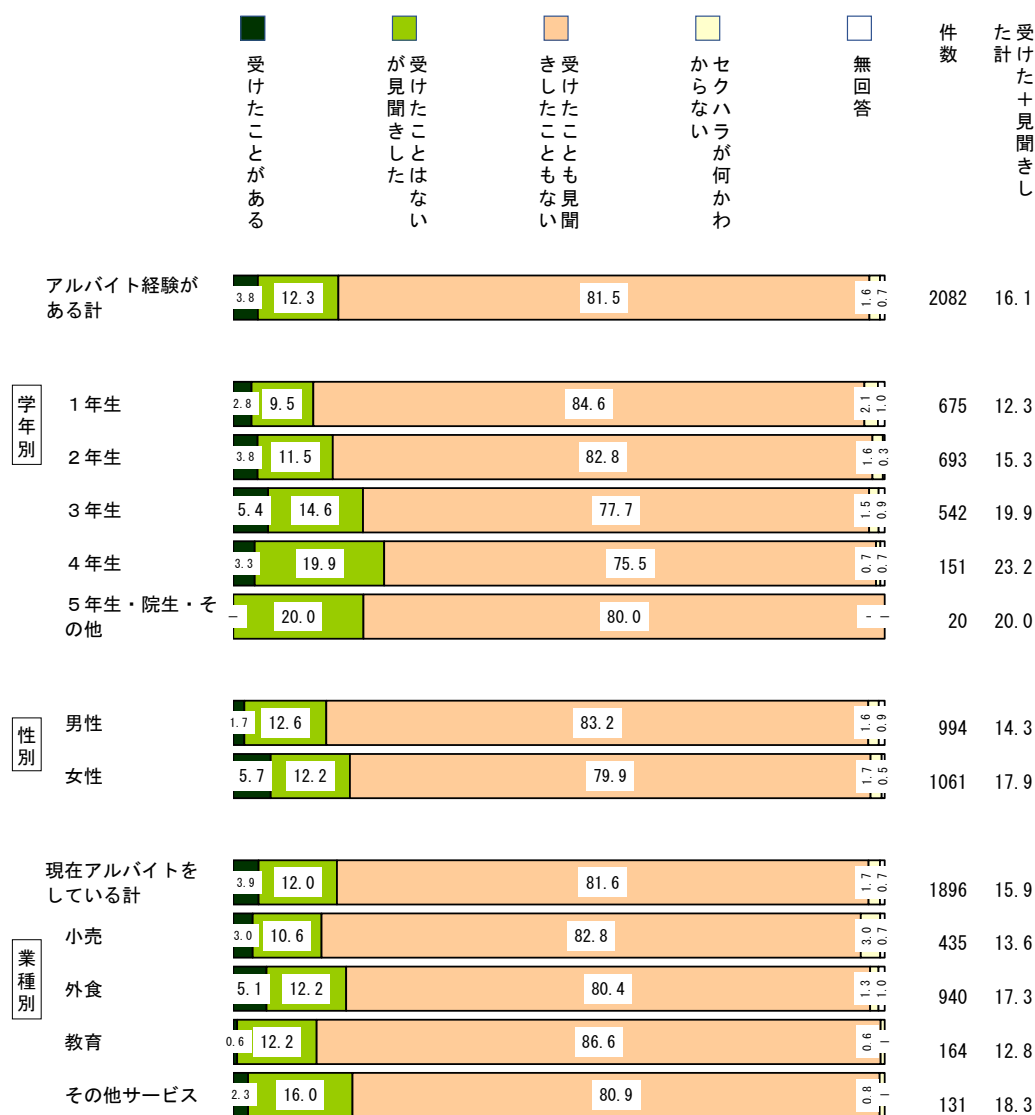
1. ハラスメントを受けたこと、見聞きしたことの有無

（1）セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）

セクハラを「受けたことがある」は3.8%、これに「受けたことはないが見聞きした」（12.3%）を合わせた＜受けた＋見聞きした＞は16.1%と2割近くを占める。なお、「セクハラが何かわからない」（0.7%）はごくわずかにとどまった（第3-1図）。

＜受けた＋見聞きした＞は学年が上がるにつれて多くなり、3、4年生では2割前後を占める。性別では、「受けたことがある」は女性で5.7%を占め、男性（1.7%）に比べて多い。現在アルバイトをしている層について、業種別にみると、「受けたことがある」は外食で5.1%とやや多い。＜受けた＋見聞きした＞はその他サービスと外食で2割近くを占め、小売や教育に比べて多くなっている。

第3-1図 アルバイト先でセクハラ（セクシュアル・ハラスメント）を受けたことの有無



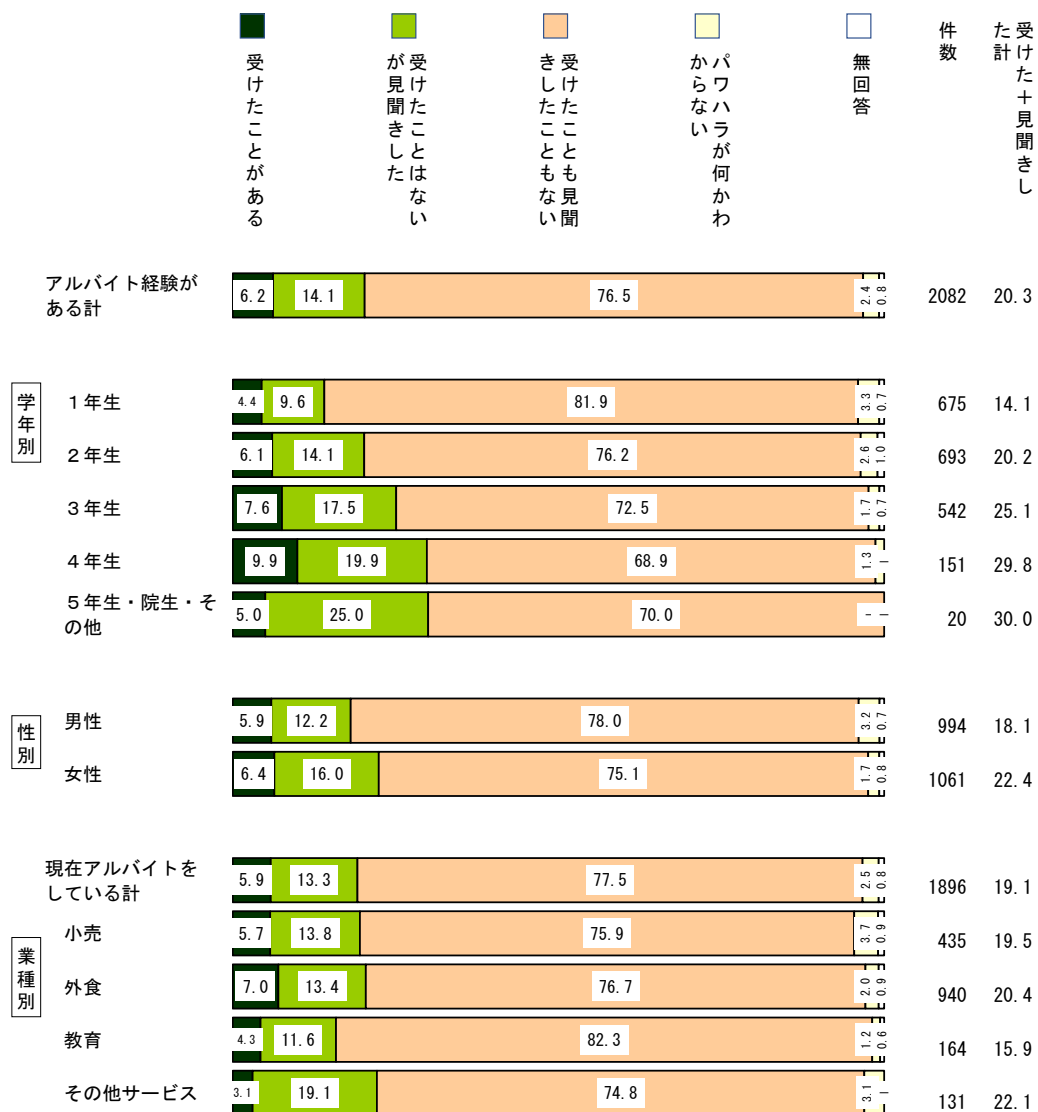
(2) パワー・ハラスメント（パワハラ）

パワハラについては、「受けたことがある」が6.2%、これに「受けたことはないが見聞きした」（14.1%）を合わせた＜受けた＋見聞きした＞は20.3%と2割を占める。セクハラ同様、「パワハラが何かわからない」（0.8%）はわずかである（第3-2図）。

「受けたことがある」、「受けたことはないが見聞きした」は学年が上がるにつれて多くなり、4年生では、「受けたことがある」が1割、＜受けた＋見聞きした＞は3割を占める。

現在アルバイトをしている層について、業種別にみると、＜受けた＋見聞きした＞は教育でやや少なく、その他の業種では2割程度を占める。

第3-2図 アルバイト先でパワハラ（パワー・ハラスメント）を受けたことの有無



(3) カスタマー・ハラスメント（カスハラ）

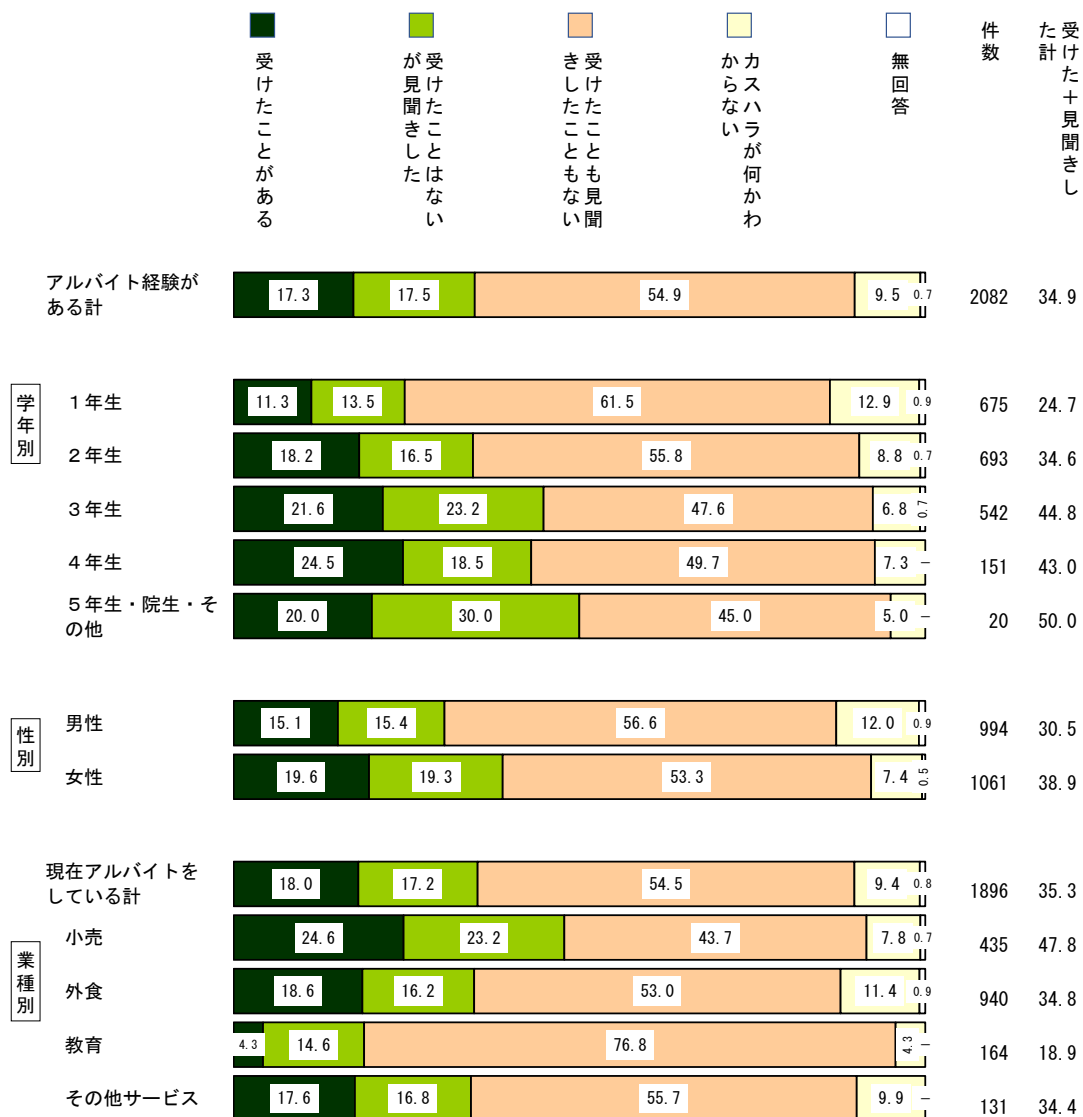
カスハラについては、「受けたことがある」は17.3%を占め、セクハラやパワハラに比べて多い。これに「受けたことはないが見聞きした」（17.5%）を合わせると、＜受けた＋見聞きした＞は34.9%と全体の3分の1を占める。なお、「カスハラが何かわからない」（9.5%）は1割を占め、セクハラやパワハラに比べて多い（第3-3図）。

学年別にみると、1年生では「カスハラが何かわからない」が1割強とやや多く、＜受けた＋見聞きした＞は2割台半ばと比較的少ないが、3、4年生になると同割合は4割強と多くなる。

性別では、女性で「受けたことがある」がやや多く、＜受けた＋見聞きした＞が4割近くを占め、男性に比べて多くなっている。

現在アルバイトをしている層について、業種別にみると、「受けたことがある」は小売で24.6%と最も多く、外食やその他サービスでも2割近くを占める。＜受けた＋見聞きした＞は小売で47.8%と5割近くに及んでいる。

第3-3図 アルバイト先でカスハラ（カスタマー・ハラスメント）を受けたことの有無



2. ハラスメントの経験による影響

セクハラ、パワハラ、カスハラのいずれかを「受けたことがある」と回答した層を対象に、ハラスメントの経験による影響を複数選択でたずねたところ、「特に影響はなかった」(30.9%)は3割にとどまり7割近くの学生が、ハラスメントを受けたことによる影響があったと回答している。具体的な影響としては、「仕事へのモチベーションが下がった」(53.6%)が5割強、「アルバイトに行きたくなくなった」(36.6%)も4割近くを占める(第3-1表)。

学年別にみると、「仕事へのモチベーションが下がった」は1年生と3年生、「アルバイトに行きたくなくなった」は1年生で多い。性別では、女性は男性に比べて「特に影響はなかった」が少なく、「仕事へのモチベーションが下がった」が6割近く占めるほか、「アルバイトに行きたくなくなった」が5割近くを占め、男性を大きく上回っている。

第3-1表 ハラスメントの経験による影響 (ハラスメントを受けたことがある方・複数選択)

	た く な く イ ナ ト つ に た 行 き た	ア シ ヨ 事 ン ヘ の 下 モ ト が チ つ べ し	仕 事 の 休 ん	ア ル バ イ ト を 休 ん	出 た 生 活 に 支 障 が	を 辞 め た イ ト の 仕 事	そ の 他	た 特 に 影 響 は な か つ	無 回 答	件 数
アルバイト経験がある計	36.6 ②	53.6 ①	3.9	6.3	11.8	3.1	30.9 ③	0.7		459
1年生	45.6 ②	59.2 ①	7.8	9.7	5.8	5.8	25.2 ③	1.9		103
2年生	36.5 ②	47.8 ①	3.1	5.0	15.1	3.1	35.8 ③	0.6		159
3年生	37.0 ②	58.9 ①	3.4	6.2	13.7	2.1	24.7 ③	...		146
4年生	15.2 ③	41.3 ②	...	4.3	8.7	...	47.8 ①	...		46
5年生・院生・その他	50.0	100.0	...	...	...	...	...	...		4
男性	21.0 ③	48.6 ①	3.9	6.6	9.4	3.9	40.9 ②	1.1		181
女性	46.7 ②	56.6 ①	4.0	6.2	12.8	2.6	24.8 ③	0.4		274

※下線数字は「アルバイト経験がある計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「アルバイト経験がある計」より5ポイント以上多いことを示す
 ※濃い網かけ数字は「アルバイト経験がある計」より15ポイント以上多いことを示す
 ※丸数字は比率の順位(第3位まで表示)
 ※件数30以下なら網掛等非表示

第3-2表は、受けたことがあるハラスメントの内容別にハラスメントを受けた経験の影響をみたものである。これをみると、パワハラを受けたことがあると回答した層で、何らかの影響が出た割合が多く、3人に2人が「仕事へのモチベーションが下がった」や「アルバイトに行きたくなくなった」をあげている。また、「アルバイトの仕事を辞めた」割合をみると、パワハラを受けた層で3割、セクハラを受けた層でも2割を占める。

第3-2表 ハラスメントの経験による影響 (ハラスメントを受けたことがある方・複数選択)

	た く な く イ ナ ト つ に た 行 き た	ア シ ヨ 事 ン ヘ の 下 モ ト が チ つ べ し	仕 事 の 休 ん	ア ル バ イ ト を 休 ん	出 た 生 活 に 支 障 が	を 辞 め た イ ト の 仕 事	そ の 他	た 特 に 影 響 は な か つ	無 回 答	件 数
アルバイト経験がある計	36.6 ②	53.6 ①	3.9	6.3	11.8	3.1	30.9 ③	0.7		459
セクハラを受けたことがある	49.4 ①	49.4 ①	7.6	7.6	20.3 ②	1.3	26.6 ③	3.8		79
パワハラを受けたことがある	64.3 ②	65.1 ①	10.9	17.8	29.5 ③	0.8	10.9 ②	0.8		129
カスハラを受けたことがある	31.0 ③	52.6 ①	2.8	5.3	9.4	3.6	34.3 ②	...		361

※下線数字は「アルバイト経験がある計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「アルバイト経験がある計」より5ポイント以上多いことを示す
 ※濃い網かけ数字は「アルバイト経験がある計」より15ポイント以上多いことを示す
 ※丸数字は比率の順位(第3位まで表示)

3. ハラスメントを受けたあとの行動

ハラスメントを受けたことがある層を対象にハラスメントを受けたあとの行動（複数選択）をみると、「特になにもしなかった」（31.2%）が3割を占めるものの、7割近くの学生が行動をとっている。具体的な行動をみると、「アルバイト先の同僚に相談」（30.7%）と「アルバイト先の正社員などに相談」（26.8%）が3割前後、「家族に相談した」（23.7%）、「アルバイト先以外の友人に相談」（22.4%）が2割強ずつを占める。なお、「アルバイト先の労働組合に相談」（0.2%）や「アルバイト先の相談窓口相談」（0.9%）は少数にとどまった（第3-3表）。

性別では、男性については「特になにもしなかった」が4割台半ばを占めるのに対し、女性は2割程度と女性の方が行動をとった割合が多い。女性は「アルバイト先の同僚に相談」が4割近くを占め、男性を大きく上回っているほか、「アルバイト先の正社員などに相談」も3割を占め、男性に比べて多い。

第3-3表 ハラスメントを受けたあとの行動（ハラスメントを受けたことがある方・複数選択）

		談 話 窓 口 に 相 談	ア ル バ イ ト 先 の 相 談	社 員 な ど に 相 談	ア ル バ イ ト 先 の 正	に 被 害 を 訴 え た	警 察 な ど 公 的 機 関	係 に 相 談	ア ル バ イ ト 先 の 同	働 組 合 に 相 談	ア ル バ イ ト 先 の 労	の 組 合 等 に 相 談	ア ル バ イ ト 先 以 外	ア ル バ イ ト 先 以 外	家 族 に 相 談 し た	そ の 他	特 に な に も し な かつ た	無 回 答	件 数
学 年 別	アルバイト経験がある計	0.9	26.8 ③	0.7	30.7 ②	0.2	...	22.4 ⑤	23.7 ④	2.2	31.2 ①	1.1	459						
	1年生	1.0	17.5 ⑤	1.0	28.2 ①	...	...	21.4 ④	25.2 ③	4.9	28.2 ①	1.9	103						
	2年生	0.6	28.9 ②	0.6	28.9 ②	...	...	23.9 ⑤	27.0 ④	1.3	31.4 ①	1.3	159						
	3年生	1.4	32.2 ②	0.7	36.3 ①	0.7	...	24.0 ④	23.3 ⑤	2.1	26.7 ③	0.7	146						
	4年生	...	26.1 ②	...	21.7 ③	...	...	10.9 ④	10.9 ④	...	50.0 ①	...	46						
	5年生・院生・その他	...	...	...	75.0	...	...	75.0	25.0	...	25.0	...	4						
性 別	男性	1.1	22.7 ②	0.6	21.5 ③	...	...	16.0 ④	9.4 ⑤	3.3	45.9 ①	1.1	181						
	女性	0.7	29.9 ③	0.7	36.9 ①	0.4	...	26.6 ④	32.1 ②	1.5	21.9 ⑤	1.1	274						

※下線数字は「アルバイト経験がある計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「アルバイト経験がある計」より5ポイント以上多いことを示す

※濃い網かけ数字は「アルバイト経験がある計」より15ポイント以上多いことを示す

※丸数字は比率の順位(第5位まで表示)

※件数30以下なら網掛等非表示

受けたことがあるハラスメントの内容別に見ると、いずれも「特に何もしなかった」が3割前後を占める。セクハラやカスハラを受けた層では、「アルバイト先の正社員などに相談」が3割近くを占めるのに対し、パワハラを受けた層については2割弱と相対的に少なく、「アルバイト先以外の友人に相談」の割合が多くなっている（第3-4表）。

第3-4表 ハラスメントを受けたあとの行動（ハラスメントを受けたことがある方・複数選択）

	窓口に相談	アルバイト先の相談	アルバイト先の正社員などに相談	被害を訴えた	警察などの機関に相談	アルバイト先の同僚に相談	アルバイト先の労働組合に相談	組合等に相談	友人に相談	アルバイト先以外の家族に相談した	その他	特になしなかった	無回答	件数
総計	0.9	26.8 ③	0.7	30.7 ②	0.2	...	22.4 ⑤	23.7 ④	2.2	31.2 ①	1.1	459		
セクハラを受けたことがある	2.5	25.3 ④	...	26.6 ②	...	...	21.5 ⑤	31.6 ①	5.1	26.6 ②	3.8	79		
パワハラ受けたことがある	1.6	17.8 ⑤	...	33.3 ②	0.8	...	34.1 ①	31.8 ③	3.9	27.9 ④	0.8	129		
カスハラ受けたことがある	1.1	29.6 ③	0.8	31.0 ②	0.3	...	22.2 ⑤	22.7 ④	2.2	31.6 ①	0.6	361		

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す

※丸数字は比率の順位(第5位まで表示)

4. カスハラについての学習や情報の入手

カスハラについて、「カスハラが何かわからない」と回答した以外の層に対して、「カスハラ」についての学習や情報の入手について複数選択でたずねた。最も多かったのは「インターネット・SNS」(50.7%)で5割がこれをあげている。以下、「テレビ番組」(44.6%)が4割強、「大学の授業」(26.0%)が3割近くで続いている(第3-5表)。

学年別にみると、学年が上がるにつれて「大学の授業」が多くなり、3、4年生では3~4割を占める。また、「アルバイト先での研修」も4年生で2割強を占め、やや多くなっている。

現在アルバイトをしている層を対象に、業種別にみると、小売では、「アルバイト先での研修」と「店舗などに掲示しているポスター」が2割前後ずつを占め、他の業種に比べて多い。また、教育では、「大学の授業」が4割近く、「新聞や雑誌」が2割と多くなっている。

第3-5表 カスハラについて学んだり、情報を得たことの有無（「カスハラ」について知っている方・複数選択）

	アルバイト先での研修	大学の授業	テレビ番組	新聞や雑誌	インターネット・SNS	店舗などに掲示しているポスター	その他	無回答	件数
アルバイト経験がある計	17.3	26.0 ③	44.6 ②	11.8	50.7 ①	12.4	2.3	7.0	1870
学年別									
1年生	16.5	19.8 ③	44.5 ②	11.0	49.0 ①	10.7	3.4	9.1	582
2年生	15.8	22.6 ③	47.7 ②	12.4	54.1 ①	13.6	2.1	7.0	627
3年生	18.4	33.5 ③	44.9 ②	11.6	50.7 ①	14.0	1.4	4.4	501
4年生	22.9	38.6 ②	28.6 ③	10.0	41.4 ①	7.1	1.4	8.6	140
5年生・院生・その他	21.1	42.1	52.6	31.6	68.4	26.3	...	...	19
性別									
男性	19.4	24.4 ③	40.4 ②	12.5	47.8 ①	8.7	2.0	8.1	866
女性	15.4	27.4 ③	48.2 ②	11.0	53.4 ①	15.8	2.5	6.0	978
現在アルバイトをしている計	17.7	26.6 ③	43.8 ②	11.6	50.1 ①	12.1	2.2	6.9	1702
業種別									
小売	24.4	27.6 ③	44.5 ②	9.8	51.8 ①	18.3	1.5	4.8	398
外食	13.7	23.5 ③	43.9 ②	11.4	49.8 ①	9.6	2.5	6.9	825
教育	20.4	35.7 ③	42.7 ②	20.4	50.3 ①	12.7	1.9	7.0	157
その他サービス	22.0	23.7 ③	35.6 ②	11.0	52.5 ①	8.5	2.5	11.0	118

※下線数字は「アルバイト経験がある計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「アルバイト経験がある計」より5ポイント以上多いことを示す

※濃い網かけ数字は「アルバイト経験がある計」より15ポイント以上多いことを示す

※丸数字は比率の順位(第3位まで表示)

※件数30以下なら網掛等非表示

第4章 アルバイトを辞めた経験

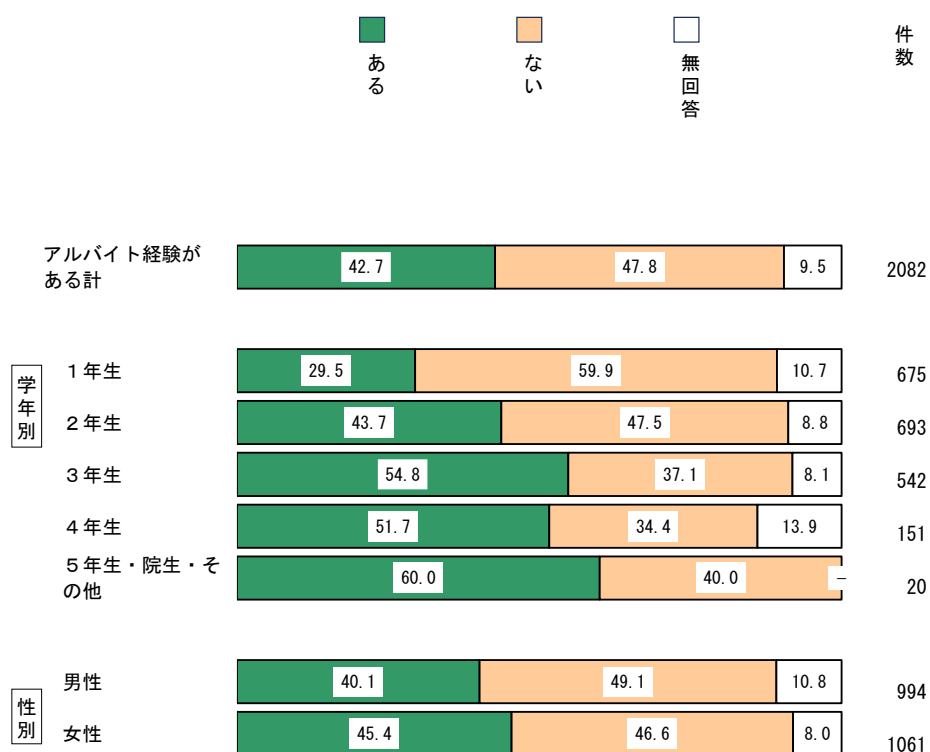
以下は、「現在アルバイトをしている」、「過去にしたが現在はしていない」と回答したアルバイト経験がある大学生（2,082名）を対象にする。

1. アルバイトを辞めたことの有無

アルバイト経験がある学生のうち、アルバイトを辞めたことが「ある」（42.7%）は4割強で「ない」（47.8%）の方がやや多い（第4-1図）。

「ある」は1年生では3割にとどまるが、3、4年生では5割強を占める。また、「ある」は男性に比べて女性でやや多くなっている。

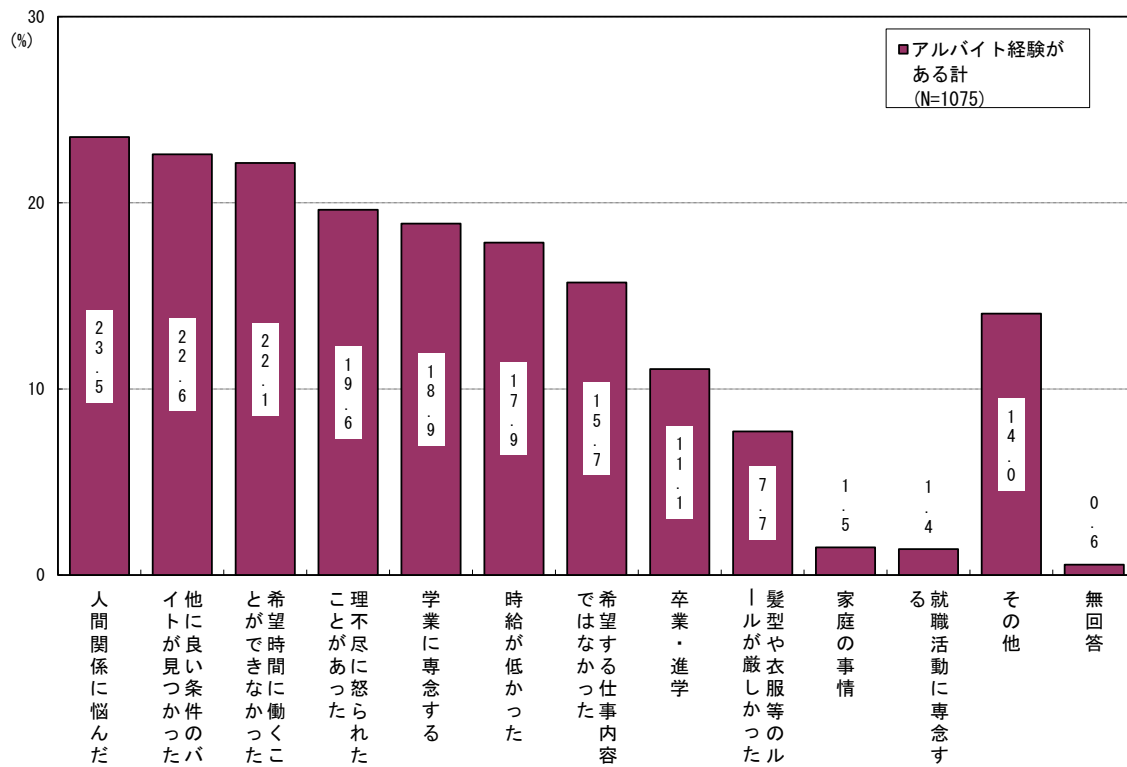
第4-1図 アルバイトを辞めたことの有無



2. アルバイトを辞めた理由

アルバイトを辞めた経験がある層を対象に、アルバイトを辞めた理由を複数選択でたずねた。上位にあげられたのは、「人間関係に悩んだ」(23.5%)、「他に良い条件のアルバイトが見つかった」(22.6%)、「希望時間に働くことができなかった」(22.1%)でいずれも2割強を占める。これに、「理不尽に怒られたことがあった」(19.6%)、「学業に専念する」(18.9%)、「時給が低かった」(17.9%)、「希望する仕事内容ではなかった」(15.7%)などが続いている(第4-2図)。

第4-2図 アルバイトを辞めた理由(アルバイトを辞めたことがある方・複数選択)



また、アルバイトを過去にしていたが現在はしていない層では、3分の1が「学業に専念する」をあげており、現在アルバイトをしている層を上回っている。

		件数	無回答	その他	家庭の事情	卒業・進学	他に良い条件のバイトが見つかった	就職活動に専念する	人間関係に悩んだ	理不尽に怒られたことがあった	髪型や衣服等のルールが厳しかった	希望する仕事内容ではなかった	希望時間に働くことができなかった	時給が低かった	学業に専念する
学年別	アルバイト経験がある計	1075	0.6	14.0	1.5	11.1	22.6 ^②	1.4	23.5 ^①	19.6 ^④	7.7	15.7	22.1 ^③	17.9	18.9 ^⑤
	1年生	268	0.7	14.6	0.7	21.3 ^②	14.9 ^②	---	18.3 ^④	17.9 ^⑤	8.6	11.2	19.0 ^③	16.8	23.5 ^①
	2年生	359	0.8	13.6	2.5	8.6	25.3 ^②	0.6	26.2 ^①	19.8 ^④	8.6	18.9 ^⑤	24.2 ^③	18.4	16.2
	3年生	338	0.3	14.5	0.6	5.9	23.1 ^③	2.1	27.2 ^①	21.0 ^④	5.9	15.1	23.7 ^②	18.0 ^⑤	17.8
	4年生	98	---	13.3	2.0	7.1	27.6 ^①	6.1	17.3 ^③	18.4 ^③	5.1	18.4 ^③	18.4 ^③	16.3 ^②	19.4 ^②
	5年生・院生・その他	12	---	8.3	8.3	33.3	58.3	---	8.3	25.0	33.3	16.7	33.3	25.0	25.0
性別	男性	496	0.6	14.9	1.8	12.1	23.6 ^①	1.0	18.5 ^③	17.3 ^⑤	6.5	15.3	21.8 ^②	17.7 ^④	16.7
	女性	566	0.5	13.3	1.2	10.1	22.3 ^③	1.8	27.9 ^①	21.2 ^④	9.0	16.3	22.6 ^②	18.0	20.5 ^⑤
アルバイト経験	現在アルバイトをしている	889	---	12.1	1.0	10.2	26.5 ^①	0.7	25.5 ^②	20.2 ^④	8.3	17.2	23.5 ^③	19.3 ^⑤	15.9
	過去にしていたが現在はしていない	186	3.2	23.1 ^②	3.8	15.1 ^⑤	3.8	4.8	14.0 ^③	16.7 ^③	4.8	8.6	15.6 ^④	10.8	33.3 ^①

※件数30以下なら網掛等非表示

第5章 スポットバイトの経験

以下は、「現在アルバイトをしている」、「過去にしたが現在はしていない」と回答したアルバイト経験がある大学生（2,082名）を対象にする。

1. スポットバイトの経験

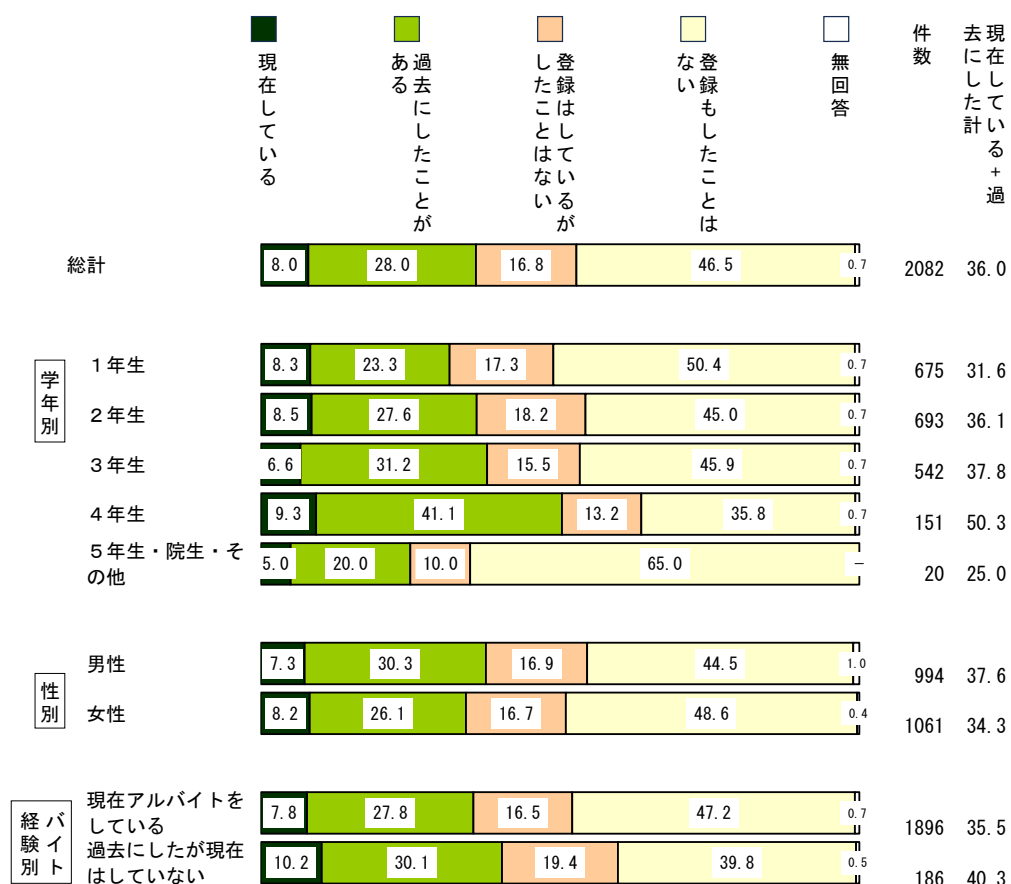
スポットバイト（単発バイト）の経験をみると、「現在している」が8.0%、これに「過去にしたことがある」（28.0%）を合わせた＜現在している+過去にした＞割合は36.0%である。そのほか、「登録はしているがしたことはない」（16.8%）が2割弱で、「登録もしたことはない」（46.5%）が5割近くを占める（第5-1図）。

＜現在している+過去にした＞割合は、学年が上がるにつれて多くなり、4年生では5割を占める。

性別による目立った差はない。

アルバイトを過去にしたが現在はしていない層は＜現在している+過去にした＞が4割を占め、現在アルバイトをしている層をやや上回る。

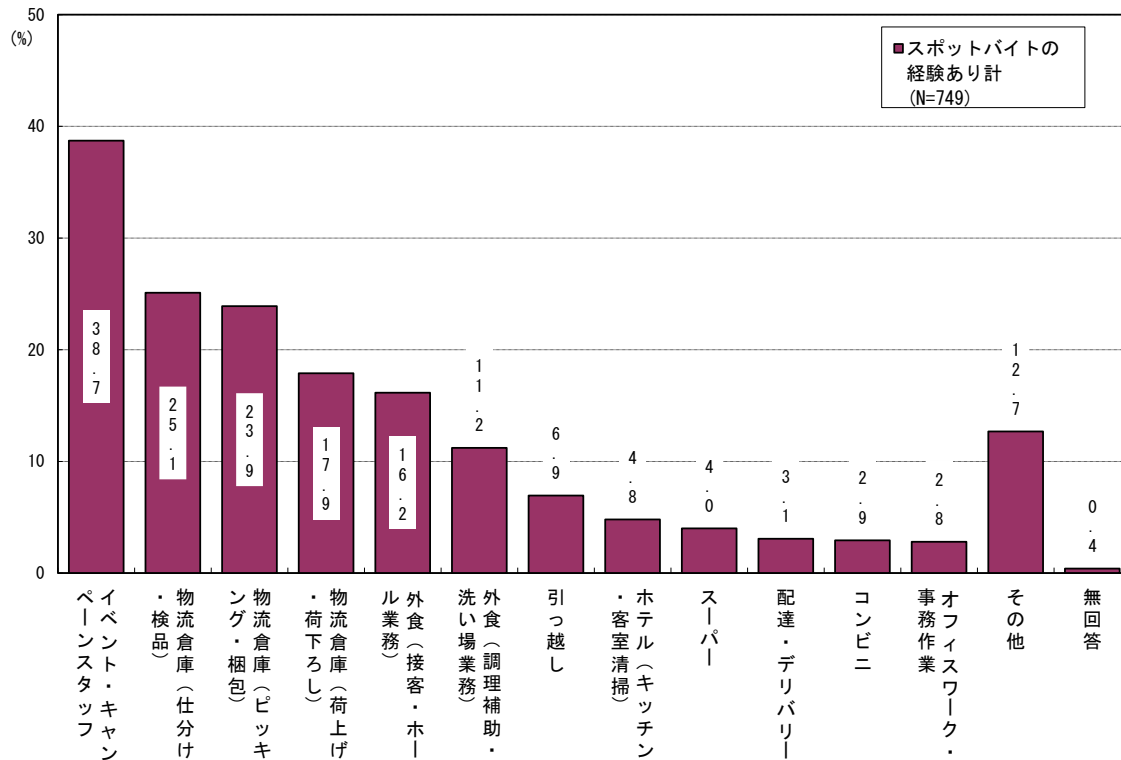
第5-1図 スポットバイト（単発バイト）をしたことの有無



2. スポットバイトの種類

スポットバイトの経験がある層を対象に経験したことがあるスポットバイトの種類（複数選択）をみると、「イベント・キャンペーンスタッフ」（38.7%）が4割近くを占め、最も多い。以下、「物流倉庫（仕分け・検品）」（25.1%）と「物流倉庫（ピッキング・梱包）」（23.9%）が2割台、「物流倉庫（荷上げ・荷下ろし）」（17.9%）、「外食（接客・ホール業務）」（16.2%）、「外食（調理補助・洗い場業務）」（11.2%）が1割台で続いている（第5-2図）。

第5-2図 スポットバイト（単発バイト）の種類（スポットバイトの経験がある方、複数選択）



アルバイト経験別にみると、過去にアルバイトをしていた層では、「イベント・キャンペーンスタッフ」をはじめ、「物流倉庫（ピッキング・梱包）」、「物流倉庫（仕分け・検品）」などで現在アルバイトしている層を上回っている。

		件数	無回答	その他	イベント・キャン ベーンスタッフ オフィスワーク・ 事務作業 ホテル（キッチン・ 客室清掃） コンビニ スーパー 配達・デリバリー 引越 物流倉庫（ピッキ ング・梱包） 物流倉庫（仕分 け・検品） 物流倉庫（荷上 げ・荷下ろし） 洗食（調理補助・ 洗食場業務） 外食（接客・ホー ル業務）	12.7 ⑥	0.4	38.7 ①	2.8	4.8	2.9	4.0	3.1	6.9	23.9 ③	25.1 ②	17.9 ④	11.2	16.2 ⑤	経験あり計
学年別	1年生	213	0.5	12.7 ⑥	32.9 ①	1.9	3.3	2.8	2.9	4.7	3.3	8.9	22.5 ③	27.7 ②	21.6 ④	11.7	16.0 ⑤	スポットバイトの経験あり計		
	2年生	250	...	14.4 ⑥	39.6 ①	4.4	6.4	2.8	3.2	1.2	4.4	21.2 ③	23.2 ②	14.8 ⑤	10.0	17.2 ④				
	3年生	205	1.0	12.2	39.5 ①	1.5	3.9	3.9	4.9	5.4	6.8	26.8 ②	23.4 ③	17.6 ④	12.7 ⑥	14.1 ⑤				
	4年生	76	...	9.2 ⑥	48.7 ①	3.9	5.3	1.3	1.3	2.6	9.2 ⑥	25.0 ③	28.9 ②	17.1 ④	7.9	17.1 ④				
	5年生・院生・その他	5	...	...	60.0	...	20.0	...	20.0	...	20.0	80.0	20.0	40.0	40.0	40.0				
性別	男性	374	0.5	9.4	31.8 ①	2.4	3.7	3.5	2.7	5.9	12.0 ⑥	28.6 ④	29.7 ②	29.4 ③	11.0	12.8 ⑤				
	女性	364	0.3	15.9 ⑤	45.6 ①	2.7	6.0	2.5	5.5	0.3	1.9 ④	19.2 ④	20.3 ②	6.0 ⑥	11.8 ⑥	20.1 ③				
経験別	現在アルバイトをしている	674	0.4	12.9 ⑥	38.1 ①	2.2	4.6	3.1	3.9	2.7	6.4	22.3 ③	24.5 ②	17.8 ④	11.0	16.3 ⑤				
	過去にしたが現在していない	75	...	10.7	44.0 ①	8.0	6.7	1.3	5.3	6.7	12.0 ②	38.7 ②	30.7 ③	18.7 ④	13.3 ⑥	14.7 ⑤				

※下線数字は「スポットバイトの経験あり計」より5ポイント以上少ないことを示す
※薄い網かけ数字は「スポットバイトの経験あり計」より5ポイント以上多いことを示す
※濃い網かけ数字は「スポットバイトの経験あり計」より15ポイント以上多いことを示す
※丸数字は比率の順位(第6位まで表示)
※件数30以下なら網掛等非表示

第6章 政策に対する意識・労働者の権利に関する認知

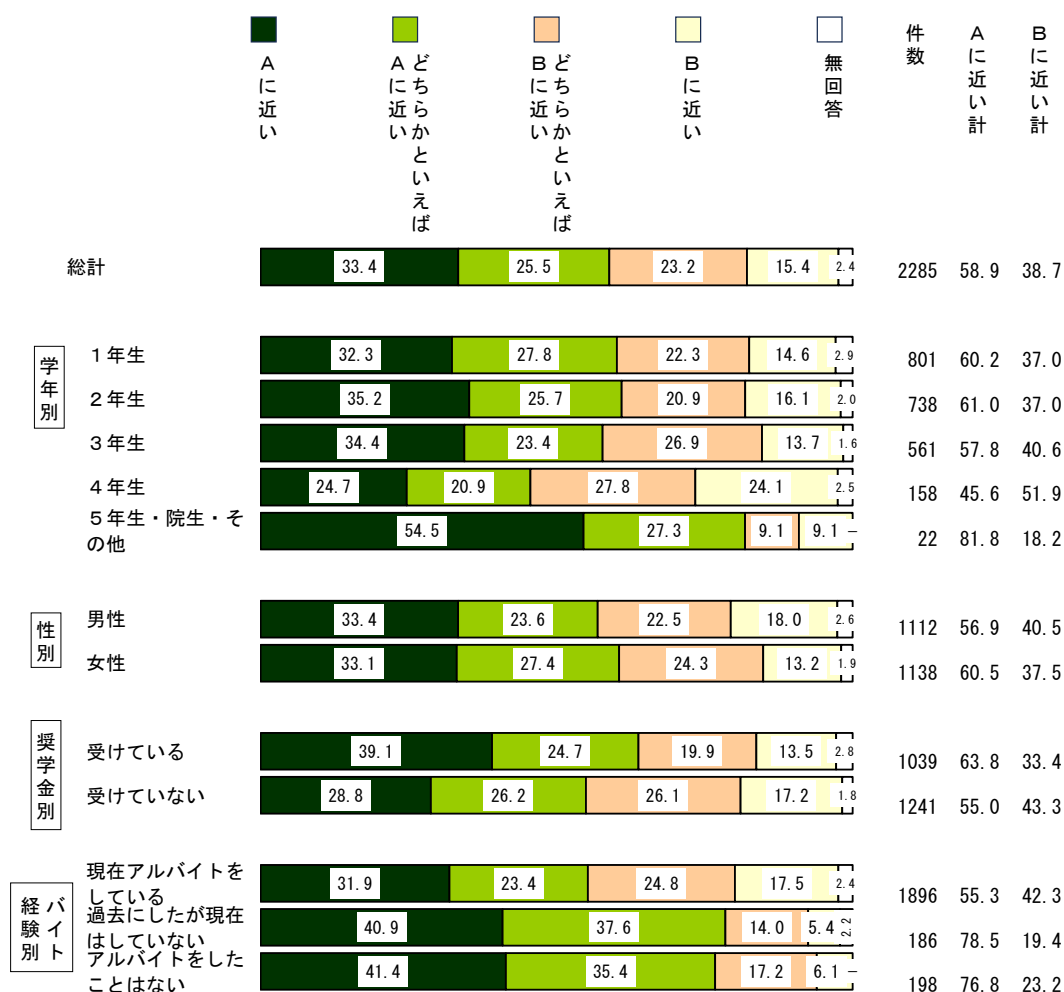
1. 大学生活における学生への経済的負担軽減策について

〔A：学費や生活費に対する給付型奨学金や公的支援を充実させて、親に頼らず、かつ、学生が働かなくても大学生活を送れるように環境を整えるべきである〕と〔B：扶養の上限を見直し、希望する学生がより多くの時間働けるようにして、学費や生活費を自力で賄えるようにするべきである〕の2つの考え方を示して、どちらの考えに近い回答してもらった。その結果をみると、＜Aに近い＞（「Aに近い」＋「どちらかといえばA」）が58.9%と6割近くを占め、＜Bに近い＞（「Bに近い」＋「どちらかといえばB」：38.7%）を大きく上回った（第6-1図）。

学年別にみると、1～3年生については＜Aに近い＞が＜Bに近い＞を上回るが、4年生については＜Bに近い＞が5割を占め、＜Aに近い＞を上回る。性別による目立った違いはないが、＜Aに近い＞は女性の方がやや多い。また、奨学金を受けている層では、明確に「Aに近い」が4割を占め、＜Aに近い＞が6割強を占め、奨学金を受けていない層を9ポイント上回っている。アルバイト経験別では、現在アルバイトをしている層では、＜Aに近い＞は5割台半ばだが、過去にしたが現在はしていない、アルバイトをしたことはない層では＜Aに近い＞が8割近くと多数に及んでいる。

第6-1図 大学生活における学生への経済的負担軽減策について

A：学費や生活費に対する給付型奨学金や公的支援を充実させて、親に頼らず、かつ、学生が働かなくても大学生活を送れるように環境を整えるべきである、
B：扶養の上限を見直し、希望する学生がより多くの時間働けるようにして、学費や生活費を自力で賄えるようにするべきである

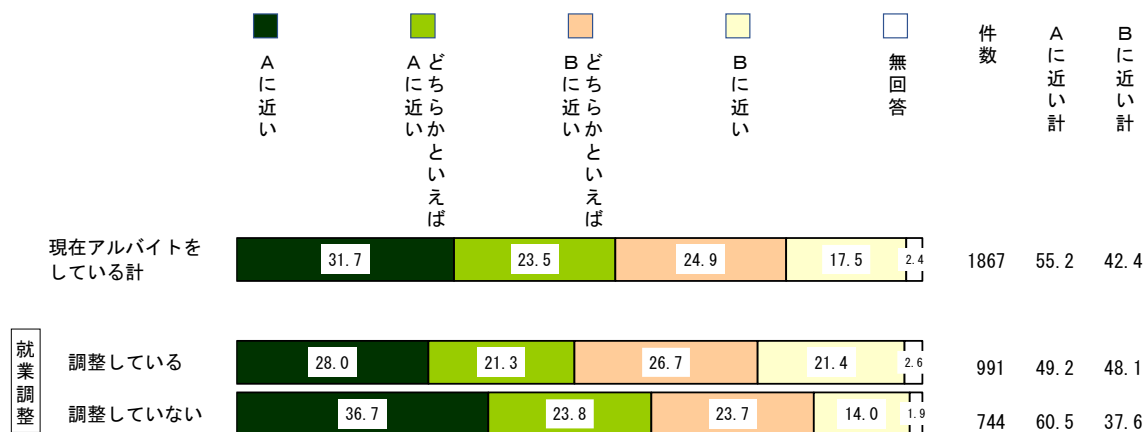


第6-2図は、現在アルバイトをしている層について、就業調整の有無別にみたものである。就業調整をしている層では、＜Aに近い＞と＜Bに近い＞がともに5割弱を占め、回答は二分されている。また、就業調整をしていない層では、＜Aに近い＞が6割を占め、就業調整をしている層を11ポイント上回っている。

第6-2図 大学生生活における学生への経済的負担軽減策について（留学生を除く）

A：学費や生活費に対する給付型奨学金や公的支援を充実させて、親に頼らず、かつ、学生が働かなくても大学生生活を送れるように環境を整えるべきである

B：扶養の上限を見直し、希望する学生がより多くの時間働けるようにして、学費や生活費を自力で賄えるようにするべきである



2. 労働者の権利についての理解

労働者の権利にかかわる項目をあげ、内容のわかるものをすべて選択してもらったところ、「最低賃金」が90.5%と最も多く、「労働組合」(70.1%)が7割、「年次有給休暇」(56.8%)、「就業規則」(55.8%)、「残業割増」(54.0%)、「団結権」(52.6%)が5割台を占める(第6-1表)。

学年別にみると、いずれも学年が上がるにつれて比率が高くなる傾向はみられるが、「団結権」については、3、4年生でも6割前後と他の制度等に比べて少ない。

アルバイト経験別にみると、アルバイトをしたことはない層で、「残業割増」と「就業規則」の割合が少ない。他方、「労働組合」は、現在アルバイトをしている層で7割弱と過去にアルバイトをしていた層、アルバイトをしたことはない層に比べて少なくなっている。

第6-1表 内容のわかるもの(複数選択)

		団 結 権	最 低 賃 金	残 業 割 増	年 次 有 給 休 暇	就 業 規 則	労 働 組 合	は 内 容 の わ か ら な い も の	無 回 答	件 数
総計		52.6 ③	90.5 ①	54.0	56.8 ③	55.8	70.1 ②	0.4	5.3	2285
学 年 別	1年生	48.6 ③	87.5 ①	46.7	45.2 ③	41.4	65.2 ②	0.4	7.1	801
	2年生	49.3	91.2 ①	50.5	52.8	55.0 ③	69.9 ②	0.4	5.1	738
	3年生	61.3	93.6 ①	64.5	72.4	72.7 ③	74.5 ②	0.5	3.0	561
	4年生	56.3	91.8 ①	72.2	75.9 ③	72.2	78.5 ②	...	3.8	158
	5年生・院生・その他	77.3	100.0	50.0	90.9	68.2	95.5	...	...	22
性 別	男性	53.1	87.8 ①	53.5	55.6 ③	54.1	67.4 ②	0.4	6.8	1112
	女性	52.4	93.5 ①	54.7	58.3 ③	57.4	72.6 ②	0.4	3.5	1138
経 験 別	現在アルバイトをしている	52.6	90.6 ①	55.4	57.8 ③	56.1	68.7 ②	0.4	5.1	1896
	過去にしたが現在はしていない	52.2	90.3 ①	54.8	52.2	60.2 ③	78.0 ②	0.5	5.9	186
	アルバイトをしたことはない	54.5 ③	91.4 ①	41.9	54.0	50.5 ③	77.3 ②	0.5	4.5	198

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す

※濃い網かけ数字は「総計」より15ポイント以上多いことを示す

※丸数字は比率の順位(第3位まで表示)

※件数30以下なら網掛等非表示

3. 労働組合についての学習や情報入手

労働組合についての学習や情報入手の方法（複数選択）については、「大学の授業」が61.2%と最も多く、「インターネット・SNS」（28.7%）が3割弱、「テレビ番組」（20.0%）が2割、「新聞や雑誌」（9.4%）と「アルバイト先」（8.2%）が1割ずつを占める（第6-2表）。

学年別にみると、「大学の授業」は3、4年生で7割前後と多い一方、「インターネット・SNS」は1、2年生の方がやや多い。

性別では、女性は「大学の授業」、男性は「インターネット・SNS」でそれぞれ多い。

アルバイト経験別では、過去にしたが現在はしていない、アルバイトをしたことはない層で「インターネット・SNS」や「テレビ番組」がやや多くなっている。

第6-2表 労働組合についての学習や情報入手（複数選択）

		大学の授業	アルバイト先	テレビ番組	新聞や雑誌	インターネット・SNS	その他	無回答	件数
総計		61.2 ①	8.2	20.0 ③	9.4	28.7 ②	8.1	5.5	2285
学年別	1年生	47.6 ①	7.4	23.7 ③	9.0	33.1 ②	13.2	5.7	801
	2年生	64.2 ①	7.2	19.5 ③	10.8	29.9 ②	6.4	6.1	738
	3年生	73.6 ①	9.8	17.3 ③	7.5	22.1 ②	3.9	4.1	561
	4年生	69.0 ①	11.4	13.9 ③	10.1	25.3 ②	5.7	5.1	158
	5年生・院生・その他	95.5	9.1	9.1	18.2	27.3	4.5	...	22
性別	男性	57.1 ①	9.8	21.0 ③	10.2	34.0 ②	6.7	5.1	1112
	女性	65.6 ①	6.8	18.9 ③	8.4	23.5 ②	9.5	5.4	1138
アルバイト経験別	現在アルバイトをしている	61.4 ①	9.0	19.1 ③	9.1	27.3 ②	7.6	5.9	1896
	過去にしたが現在はしていない	58.6 ①	6.5	24.2 ③	10.8	36.6 ②	8.1	3.2	186
	アルバイトをしたことはない	63.1 ①	2.0	24.2 ③	10.6	35.4 ②	13.1	2.0	198

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す
 ※濃い網かけ数字は「総計」より15ポイント以上多いことを示す
 ※丸数字は比率の順位（第3位まで表示）
 ※件数30以下なら網掛等非表示

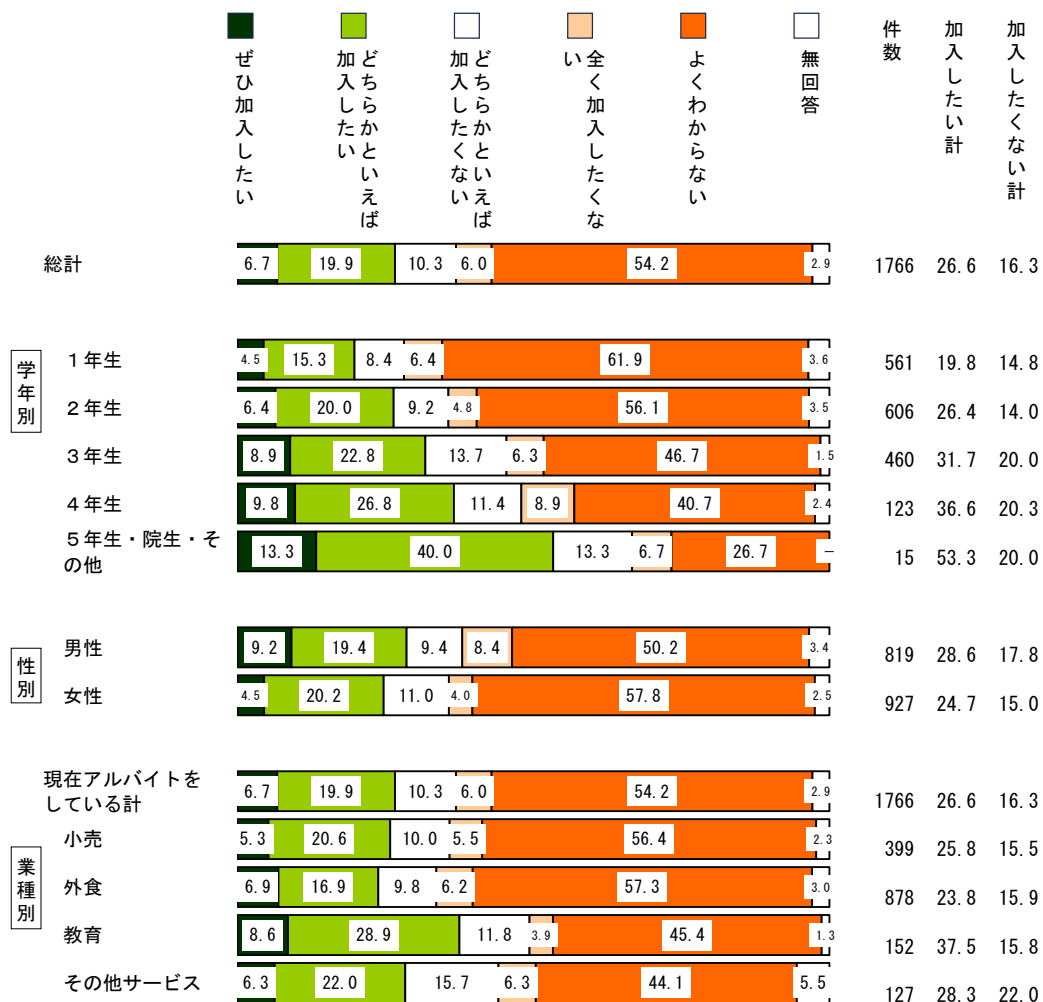
4. アルバイト先に労働組合があった場合の加入希望

現在、労働組合の組合員ではない学生を対象に、アルバイト先に労働組合があった場合の加入希望をみると、「よくわからない」が54.2%と過半数を占める。それ以外では、「ぜひ加入したい」が6.7%、これに「どちらかといえば加入したい」(19.9%)を合わせた＜加入したい＞は26.6%を占め、＜加入したくない＞(「全く」+「どちらかといえば」)の16.3%を上回った(第6-3図)。

学年別にみると、学年が上がるにつれて「よくわからない」が減少し、＜加入したい＞が多くなる傾向がみられる。性別では、女性で「よくわからない」が6割近くを占め、男性に比べて多い。

現在アルバイトをしている層を対象にアルバイト先の業種別にみると、小売と外食で「よくわからない」が6割近くを占め、教育やその他サービスを上回る。また、＜加入したい＞割合は教育で4割近くを占め、他の業種を大きく上回っている。

第6-3図 アルバイト先に労働組合があった場合の加入希望（現在労働組合の組合員ではない方）



(禁無断転載)

「大学生アルバイト調査(2025 年実施)」報告書

2026 年(令和 8 年)7 月

UAゼンセン 政策サポートセンター

〒102-8273 東京都千代田区九段南四丁目 8 番 16 号

TEL:03-3288-3725

e-mail: supportcenter@uazensen.jp

